

Ⅱ 令和5年(2023 年)鉱工業指数の動向

1 概 況

(1) 生産動向 — 生産指数は低下 —

令和5年の生産指数(原指数)は、前年比▲5.3%の100.6となり、2年連続で低下した。四半期別にみると季節調整済指数は、Ⅰ期は前期比▲1.2%で102.3、Ⅱ期は同▲3.2%で99.0、Ⅲ期は同▲0.3%で98.7と令和4年Ⅳ期以降4期連続で低下したが、Ⅳ期は同3.1%の上昇で101.8となった。

また原指数は、Ⅰ期104.0(前年同期比▲4.4%)、Ⅱ期96.6(同▲7.3%)、Ⅲ期96.5(同▲8.4%)、Ⅳ期105.3(同▲1.0%)と令和4年Ⅰ期以降8期連続で前年を下回った。

(図1、表1、図2、図3、統計表第1-1表、統計表第3表)

年間指数を業種別にみると、13業種中、汎用・生産用・業務用機械工業、電気機械工業、金属製品工業など10業種が低下し、輸送機械工業、化学工業、プラスチック製品工業の3業種が上昇した。

(表2、表3、図4、図5、図6、詳細は「2 業種別動向」を参照)

年間指数の財用途別生産指数(原指数)は、最終需要財が前年比▲7.7%で101.0となり、生産財が同▲3.2%で100.2となったことにより、全体で同▲5.3%で100.6となった。

最終需要財は、投資財(寄与度▲4.13)が同▲14.8%で99.5となり、消費財(寄与度0.55)が同2.9%の上昇で103.0となった。

生産財は、鉱工業用生産財(寄与度▲1.44)が同▲2.8%で100.9となった。

(表4、図7、統計表第2-1表)

図1 鉱工業指数(四半期季節調整済 令和2年=100)

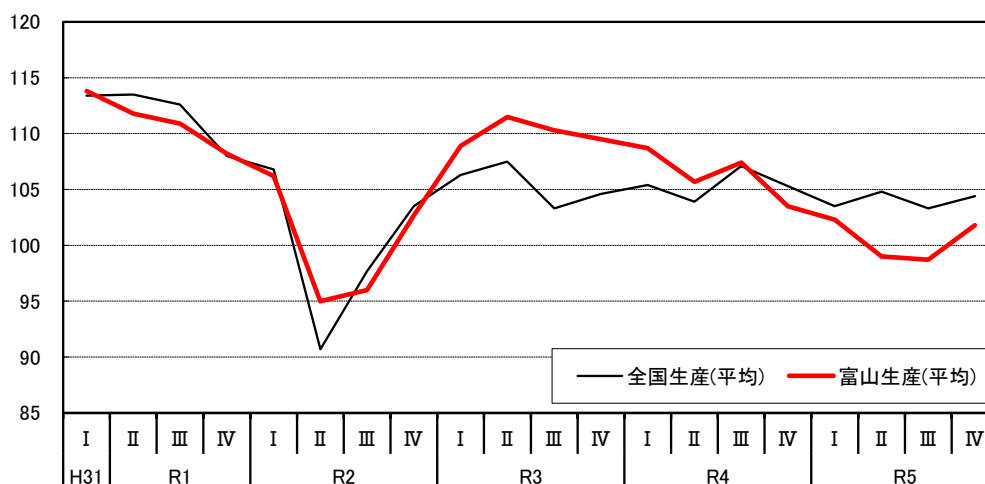


表1 鉱工業生産指数の推移

令和2年=100

	富 山			全 国		
	指 数	前 年 比 (%)	前 期 比 (%)	指 数	前 年 比 (%)	前 期 比 (%)
暦年推移(原指数)						
令和元年	111.0	▲ 6.1	－	111.6	▲ 2.6	－
2年	100.0	▲ 9.9	－	100.0	▲ 10.4	－
3年	110.2	10.2	－	105.4	5.4	－
4年	106.2	▲ 3.6	－	105.3	▲ 0.1	－
5年	100.6	▲ 5.3	－	103.9	▲ 1.3	－
令和5年四半期別推移(原指数)						
I 期	104.0	▲ 4.4	－	104.0	▲ 1.3	－
II 期	96.6	▲ 7.3	－	102.4	0.9	－
III 期	96.5	▲ 8.4	－	102.7	▲ 3.9	－
IV 期	105.3	▲ 1.0	－	106.5	▲ 0.7	－
令和5年四半期別推移(季節調整済指数)						
I 期	102.3	－	▲ 1.2	103.5	－	▲ 1.7
II 期	99.0	－	▲ 3.2	104.8	－	1.3
III 期	98.7	－	▲ 0.3	103.3	－	▲ 1.4
IV 期	101.8	－	3.1	104.4	－	1.1

注:全国指数は「経済産業省 鉱工業指数」から転載

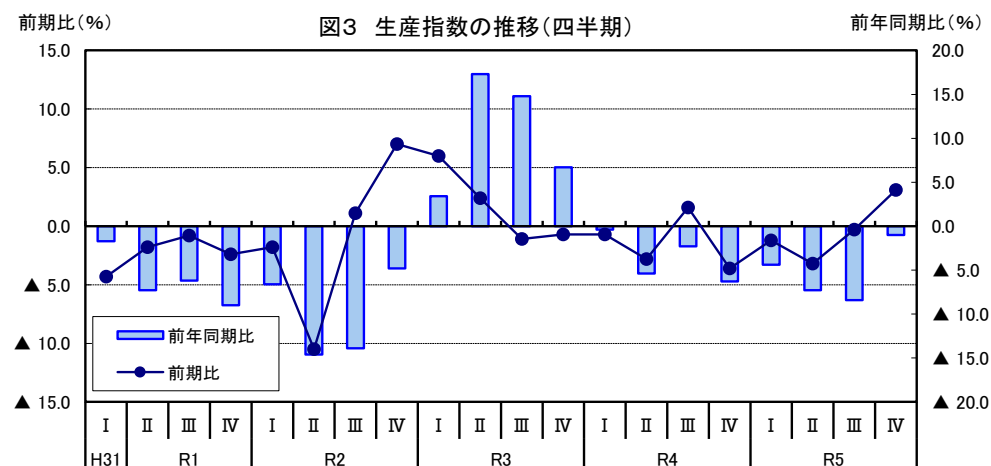
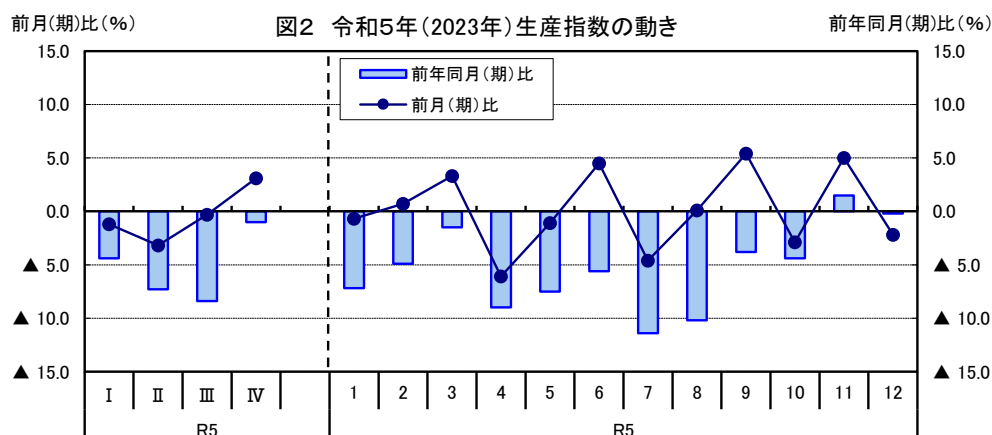


表2 生産指数(年平均)

令和2年=100

	富山県	年平均指数(原指数)		前年比 (%)	寄与度 (%ポイント)	全国(参考)
	ウェイト	令和4年	令和5年			ウェイト
鉱工業	10000.0	106.2	100.6	▲ 5.3	▲ 5.27	10000.0
製造工業	10000.0	106.2	100.6	▲ 5.3	▲ 5.27	9983.5
鉄鋼業	370.5	102.7	93.0	▲ 9.4	▲ 0.34	341.7
非鉄金属工業	607.4	110.4	105.4	▲ 4.5	▲ 0.29	254.8
金属製品工業	1163.3	109.0	105.2	▲ 3.5	▲ 0.42	452.5
汎用・生産用・業務用機械工業	1731.4	128.3	104.2	▲ 18.8	▲ 3.93	1451.9
電気機械工業	1199.3	92.3	86.9	▲ 5.9	▲ 0.61	1445.8
輸送機械工業	264.8	93.7	119.4	27.4	0.64	1502.4
窯業・土石製品工業	298.9	120.5	114.9	▲ 4.6	▲ 0.16	352.8
化学工業	2097.3	97.3	98.5	1.2	0.24	1233.0
医薬品	1415.3	96.6	103.2	6.8	0.88	218.7
プラスチック製品工業	730.7	90.2	93.2	3.3	0.21	464.7
パルプ・紙・紙加工品工業	337.9	111.3	107.7	▲ 3.2	▲ 0.11	236.5
繊維工業	159.8	115.0	101.9	▲ 11.4	▲ 0.20	150.1
食料品工業	507.9	102.3	100.2	▲ 2.1	▲ 0.10	1377.9
その他工業	530.8	110.3	105.7	▲ 4.2	▲ 0.23	719.4

$$\text{※寄与度} = \frac{(\text{当年業種指数} - \text{前年業種指数}) \times \text{業種ウェイト}}{\text{前年鉱工業指数} \times \text{鉱工業ウェイト}} \times 100$$

前年比(%) 図4 業種別生産指数対前年比(原指数)の推移

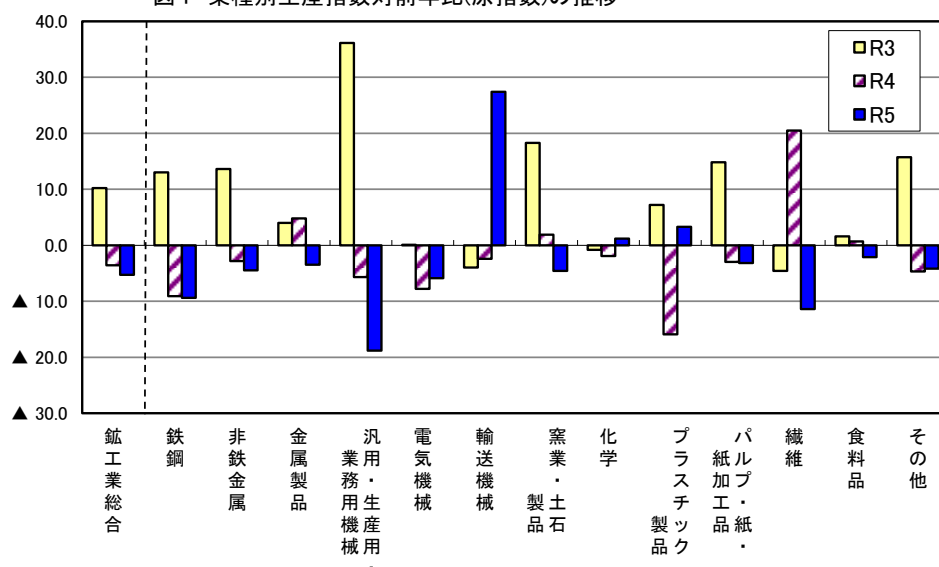


表3 業種別生産指数上昇・低下一覧(寄与度の高い順)

	業 種	寄与度(%ポイント)	主な増加品目	主な減少品目
低下業種	汎用・生産用・業務用機械工業	▲ 3.93	-	ロボット・産業機械
	電気機械工業	▲ 0.61		電子回路
	金属製品工業	▲ 0.42		建築用金属製品
	鉄鋼業	▲ 0.34	-	素製品(鋼半製品含)
	非鉄金属工業	▲ 0.29	非鉄金属鋳物	非鉄金属圧延製品
	その他工業	▲ 0.23		
	繊維工業	▲ 0.20	化繊・紡績	衣類
	窯業・土石製品工業	▲ 0.16	ガラス製品	
	パルプ・紙・紙加工品工業	▲ 0.11	紙加工品	
	食料品工業	▲ 0.10		その他の食料品
上昇業種	輸送機械工業	0.64		-
	化学工業	0.24	医薬品	化学肥料
	プラスチック製品工業	0.21	プラスチック製機械器具部品	プラスチック製フィルム・シート

※空欄は当該品目が秘匿値のため公表しません。「-」は該当品目がない項目です。

図5 業種別生産指数前年比と寄与度

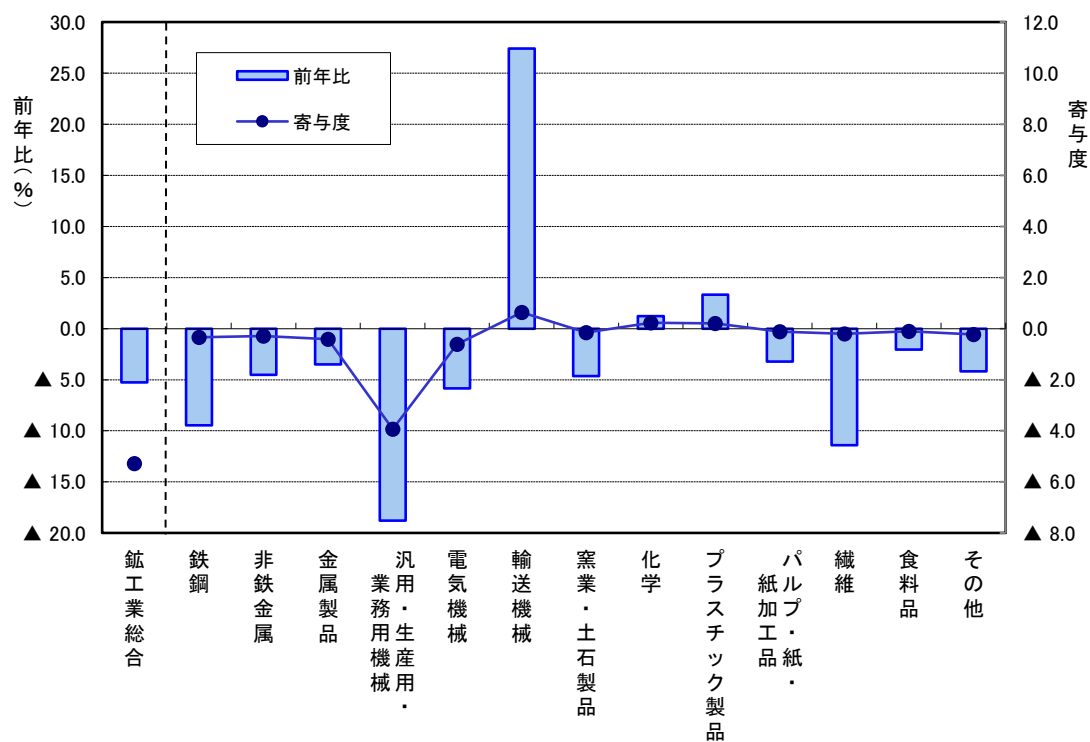


図6 生産指数(四半期季節調整済 令和2年=100)の推移

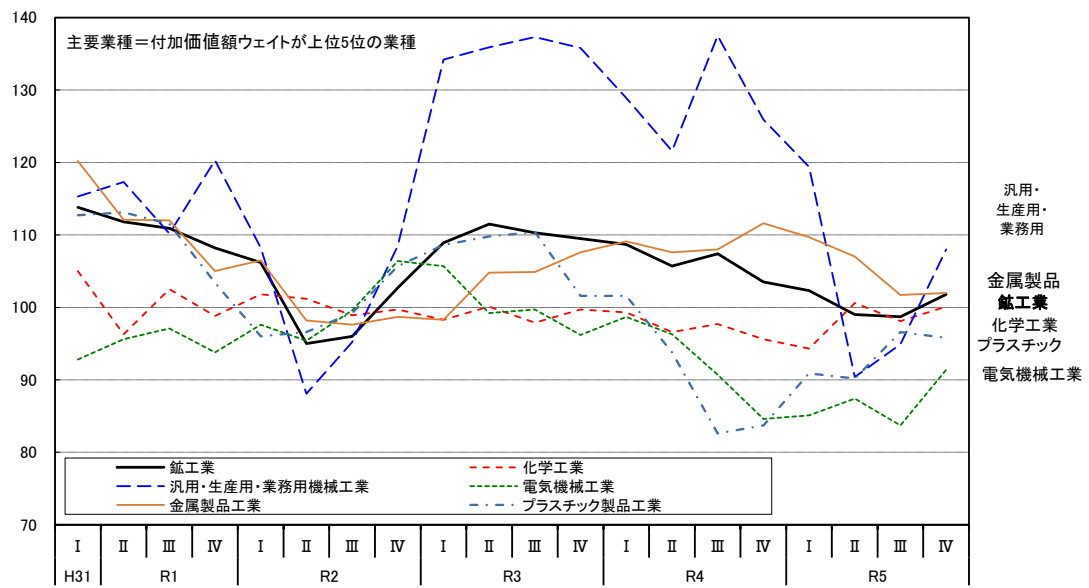


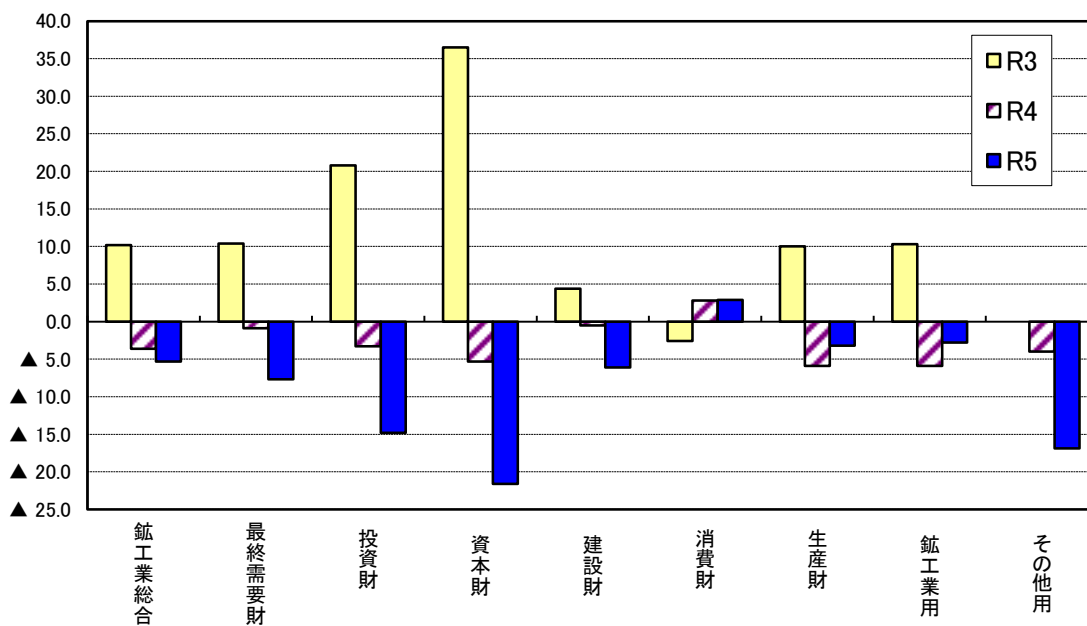
表4 生産指数（財用途分類・年平均）

令和2年=100

	ウェイト (万分比)	年平均指数(原指数)		前年比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		4年	5年		
鉱工業	10000.0	106.2	100.6	▲ 5.3	▲ 5.27
最終需要財	4550.4	109.4	101.0	▲ 7.7	▲ 3.60
投資財	2536.9	116.8	99.5	▲ 14.8	▲ 4.13
資本財	1292.4	129.2	101.3	▲ 21.6	▲ 3.40
建設財	1244.5	103.9	97.6	▲ 6.1	▲ 0.74
消費財	2013.5	100.1	103.0	2.9	0.55
耐久消費財	22.1	128.0	135.2	5.6	0.01
非耐久消費財	1991.4	99.8	102.7	2.9	0.54
生産財	5449.6	103.5	100.2	▲ 3.2	▲ 1.69
鉱工業用生産財	5255.4	103.8	100.9	▲ 2.8	▲ 1.44
その他用生産財	194.2	96.0	79.8	▲ 16.9	▲ 0.30

前年比(%)

図7 財用途別生産指数対前年比(原指数)の推移



(2) 在庫動向 — 在庫指数は上昇 —

令和5年の在庫指数(原指数)は、前年末比3.1%の上昇で102.8となり、3年連続で上昇した。

四半期別季節調整済指数は、Ⅰ期は前期末比2.3%の上昇で104.9、Ⅱ期は同1.0%の上昇で106.0、Ⅲ期は同0.4%の上昇で106.4と3期連続で上昇したが、Ⅳ期は同▲0.4%で106.0となった。

また原指数は、Ⅰ期107.3(前年同期末比3.7%)、Ⅱ期107.3(同4.7%)、Ⅲ期105.9(同3.5%)、Ⅳ期102.8(同3.1%)と令和3年Ⅳ期以降9期連続で前年を上回った。

(図8、表5、図9、図10、統計表第1-2表、統計表第4表)

年間指数を業種別にみると、13業種中、化学工業、汎用・生産用・業務用機械工業、その他工業など6業種が上昇し、電気機械工業、プラスチック製品工業、窯業・土石製品工業など7業種が低下した。

(表6、表7、図11、図12、図13、詳細は「2 業種別動向」を参照)

年間指数の財用途別在庫指数(原指数)は、最終需要財が前年末比10.4%の上昇で101.5となったが、生産財が同▲1.1%で103.5となり、全体で同3.1%の上昇で102.8となった。

最終需要財では、投資財(寄与度0.27)が同3.2%の上昇で98.0となり、消費財(寄与度3.47)が同12.7%の上昇で102.6となり、全体で同10.4%の上昇で101.5となった。

生産財では、鉱工業用生産財(寄与度▲0.82)が同▲1.3%で103.3となり、全体で同▲1.1%で103.5となった。

(表8、図14、統計表第2-2表)

図8 鉱工業指数(四半期季節調整済 令和2年=100)

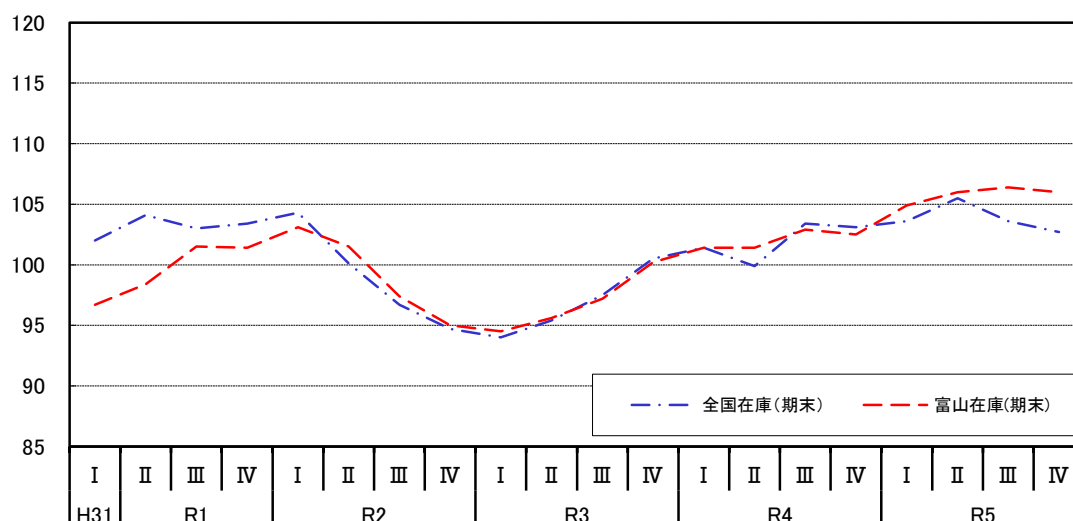


表5 鉱工業生産者製品在庫指数の推移

令和2年=100

	富 山			全 国		
	指 数 年(期)末	前年末比 (%)	前期末比 (%)	指 数 年(期)末	前年末比 (%)	前期末比 (%)
暦年推移(原指数)						
令和元年	98.7	2.0	-	101.0	0.5	-
2年	92.5	▲ 6.3	-	92.6	▲ 8.3	-
3年	97.6	5.5	-	98.5	6.4	-
4年	99.7	2.2	-	101.2	2.7	-
5年	102.8	3.1	-	100.7	▲ 0.5	-
令和5年四半期別推移(原指数)						
I 期	107.3	3.7	-	100.6	2.2	-
II 期	107.3	4.7	-	106.3	5.7	-
III 期	105.9	3.5	-	102.7	0.0	-
IV 期	102.8	3.1	-	100.7	▲ 0.5	-
令和5年四半期別推移(季節調整済指数)						
I 期	104.9	-	2.3	103.6	-	0.5
II 期	106.0	-	1.0	105.5	-	1.8
III 期	106.4	-	0.4	103.6	-	▲ 1.8
IV 期	106.0	-	▲ 0.4	102.7	-	▲ 0.9

注: 全国指数は「経済産業省 鉱工業指数」から転載

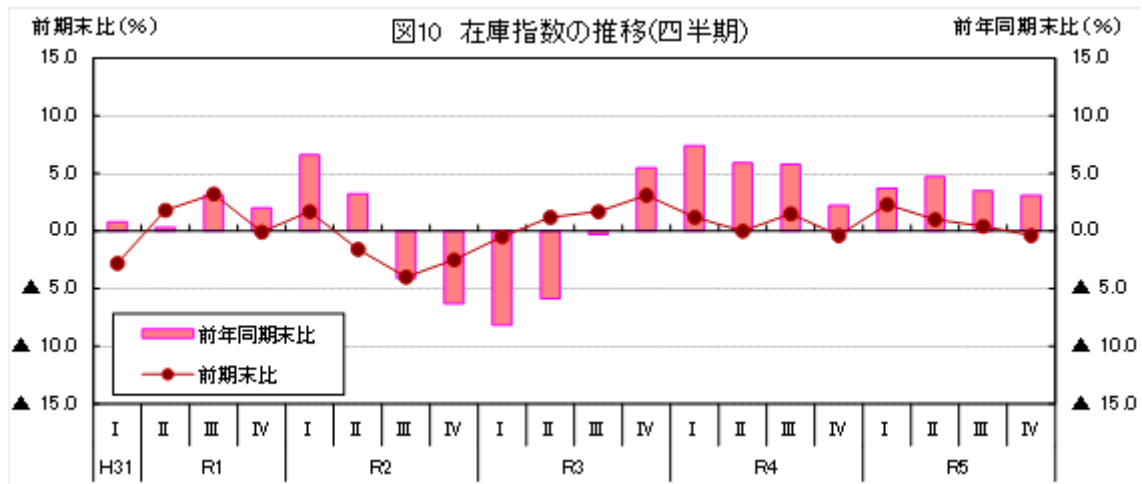
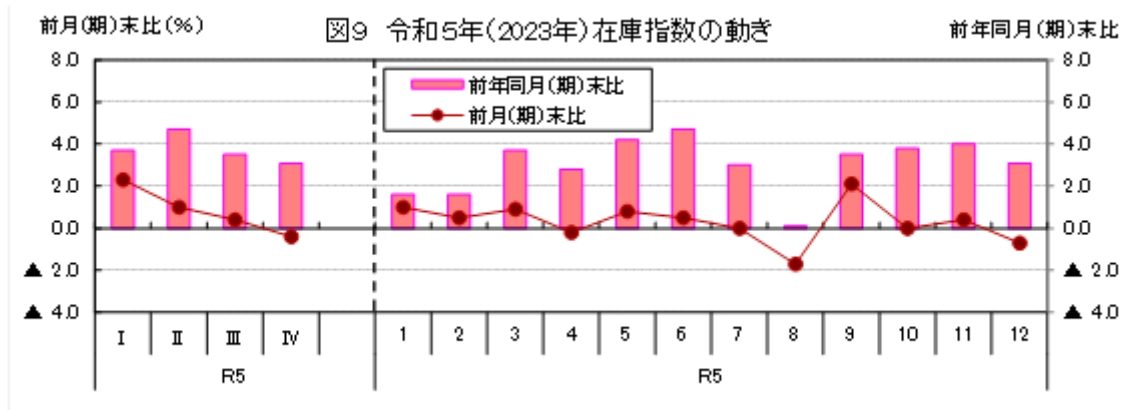


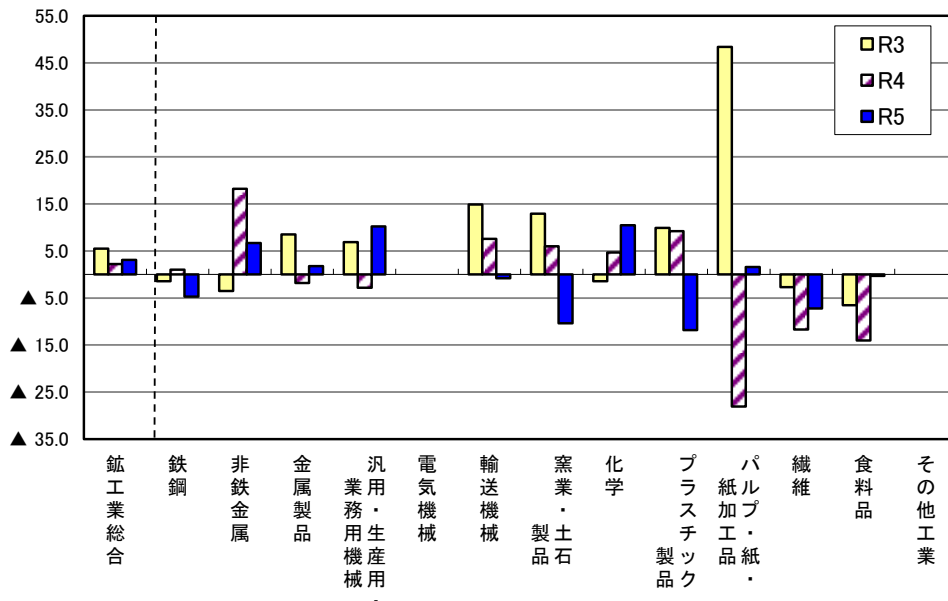
表6 在庫指数(年末)

令和2年=100

	富山県 ウェイト	年末指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)	全国(参考) ウェイト
		令和4年	令和5年			
鉱工業	10000.0	99.7	102.8	3.1	3.11	10000.0
製造工業	10000.0	99.7	102.8	3.1	3.11	9985.0
鉄鋼業	478.9	94.9	90.4	▲ 4.7	▲ 0.22	1209.0
非鉄金属工業	370.0	118.8	126.8	6.7	0.30	329.6
金属製品工業	477.6	100.7	102.5	1.8	0.09	469.3
汎用・生産用・業務用機械工業	1836.3	96.3	106.1	10.2	1.80	1270.3
電気機械工業	649.4	X	X	X	X	1100.6
輸送機械工業	185.8	122.9	121.9	▲ 0.8	▲ 0.02	606.2
窯業・土石製品工業	221.4	102.8	92.1	▲ 10.4	▲ 0.24	440.2
化学工業	3557.6	96.0	106.1	10.5	3.60	1894.2
医薬品	1999.8	96.0	112.8	17.5	3.37	-
プラスチック製品工業	616.3	116.0	102.3	▲ 11.8	▲ 0.85	432.8
パルプ・紙・紙加工品工業	498.6	79.1	80.4	1.6	0.07	300.8
繊維工業	230.7	81.1	75.3	▲ 7.2	▲ 0.13	221.4
食料品工業	540.6	68.2	68.0	▲ 0.3	▲ 0.01	978.4
その他工業	336.8	X	X	X	X	732.2

$$\text{※寄与度} = \frac{(\text{当年業種指数} - \text{前年業種指数}) \times \text{業種ウェイト}}{\text{前年鉱工業指数} \times \text{鉱工業ウェイト}} \times 100$$

前年末比(%) 図11 業種別在庫指数対前年比(原指数)の推移



※電気機械工業、その他工業の在庫指数は秘匿値のため公表しません。

表7 業種別在庫指数上昇・低下一覧(寄与度の高い順)

	業 種	寄与度(%ポイント)	主な増加品目	主な減少品目
上昇業種	化学工業	3.60	医薬品	化学肥料
	汎用・生産用・業務用機械工業	1.80		
	その他工業	X		
	非鉄金属工業	0.30		
	金属製品工業	0.09	建築用金属製品	
	パルプ・紙・紙加工品工業	0.07		紙加工品
低下業種	電気機械工業	X		
	プラスチック製品工業	▲ 0.85	プラスチック製日用品・雑貨	
	窯業・土石製品工業	▲ 0.24	ガラス製品	
	鉄鋼業	▲ 0.22	熱間圧延鋼材	素製品(鋼半製品含)
	繊維工業	▲ 0.13	-	織物
	輸送機械工業	▲ 0.02	-	自動車部品
	食料品工業	▲ 0.01		飲料

※空欄は該当品目が秘匿値のため公表しません。「-」は該当品目がない項目です。

図12 業種別在庫指数前年末比と寄与度

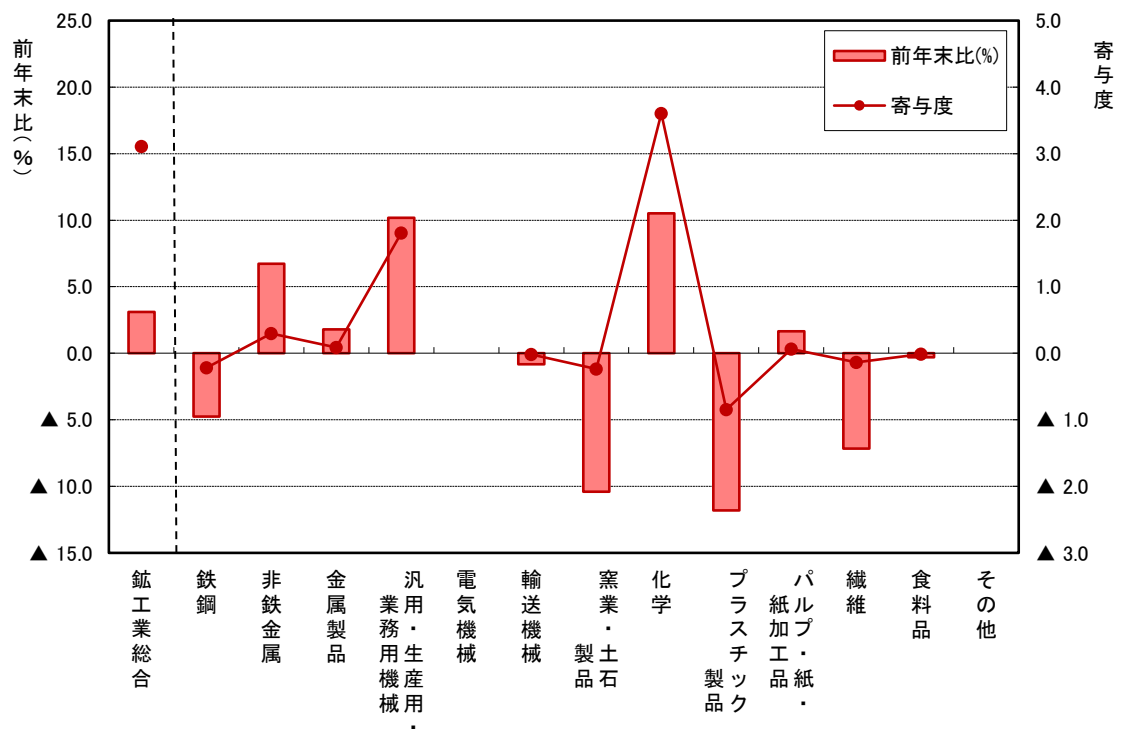


図13 在庫指数(四半期季節調整済 令和2年=100)の推移

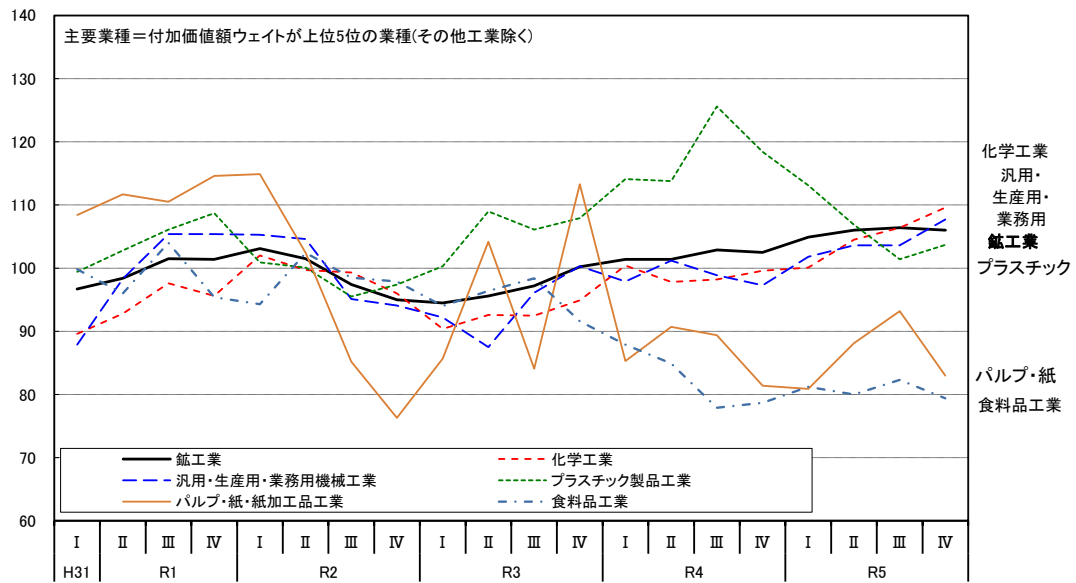


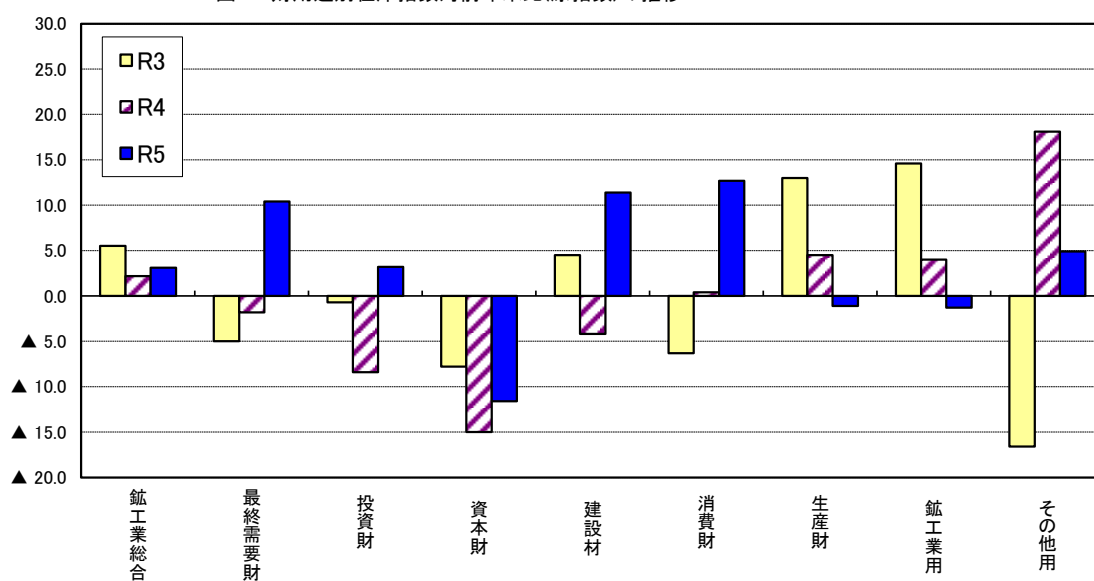
表8 在庫指数(財用途分類・年末)

令和2年=100

	ウェイト (万分比)	年末指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		4年	5年		
鉱工業	10000.0	99.7	102.8	3.1	3.11
最終需要財	3873.1	91.9	101.5	10.4	3.73
投資財	890.8	95.0	98.0	3.2	0.27
資本財	316.6	96.1	85.0	▲ 11.6	▲ 0.35
建設財	574.2	94.4	105.2	11.4	0.62
消費財	2982.3	91.0	102.6	12.7	3.47
耐久消費財	118.8	X	X	X	X
非耐久消費財	2863.5	X	X	X	X
生産財	6126.9	104.7	103.5	▲ 1.1	▲ 0.74
鉱工業用生産財	5862.0	104.7	103.3	▲ 1.3	▲ 0.82
その他用生産財	264.9	103.8	108.9	4.9	0.14

前年末比(%)

図14 財用途別在庫指数対前年末比(原指数)の推移



(3) 在庫循環

富山県の在庫循環図をみると、令和2年Ⅰ期は「在庫積み上がり局面」と「在庫調整局面」の境目付近に位置し、令和2年Ⅱ期、Ⅲ期は「在庫調整局面」へ移動したが、令和2年Ⅳ期、令和3年Ⅰ期は「在庫減少局面」へ移動した。令和3年Ⅱ期からⅣ期は「在庫積み増し局面」へ移動し、令和4年Ⅰ期からⅢ期は「在庫積み上がり局面」に位置したが、令和4年Ⅳ期は「在庫調整局面」へ移動した。令和5年Ⅰ期からⅢ期は引き続き「在庫調整局面」に位置したが、令和5年Ⅳ期は「在庫積み上がり局面」に位置している。

また、**全国の在庫循環図**をみると、令和2年Ⅰ期から令和2年Ⅲ期は「在庫調整局面」に位置し、令和2年Ⅳ期、令和3年Ⅰ期は「在庫減少局面」へ移動した。令和3年Ⅱ期、Ⅲ期は「在庫積み増し局面」へ移動し、令和3年Ⅳ期から令和4年Ⅳ期は「在庫積み上がり局面」へ移動した。令和5年Ⅰ期、Ⅱ期は引き続き「在庫積み上がり局面」に位置したが、令和5年Ⅲ期、Ⅳ期は「在庫調整局面」に位置している。

【在庫循環図について】

企業は、販売用製品、生産に必要な原材料を在庫として保有しており、その量を出荷・販売などの動きに応じて変化させる。この在庫は、経済活動全体としてみると生産と需要のギャップから発生し、景気変動に合わせて循環的に増減する傾向があり、この循環を在庫循環（Inventory Cycle）と呼んでいる。

この在庫循環は、在庫循環図（生産・在庫指数の原指数の前年同期比による在庫循環の4局面）として示すことができ、「在庫積み増し局面」→「在庫積み上がり局面」→「在庫調整局面」→「在庫減少局面」と景気の局面ごとに起こり、通常、時計の反対方向にグラフが推移する傾向がある（傾向変動を除去した場合）。

なお、過去の分析から、ほぼ40ヵ月（3～4年）の循環を示すことが多く、「キッチンの波」（キッチン(Kitchen)が分析したもの）とも呼ばれる。

在庫循環の4局面とは、以下のとおり。

「在庫積み増し局面」

景気が上向き、需要が回復しているときには、将来の需要増を見込み、原料を手当し、製品化を急ぎ、在庫を積み増す（図 b1,b2）。

「在庫積み上がり局面」

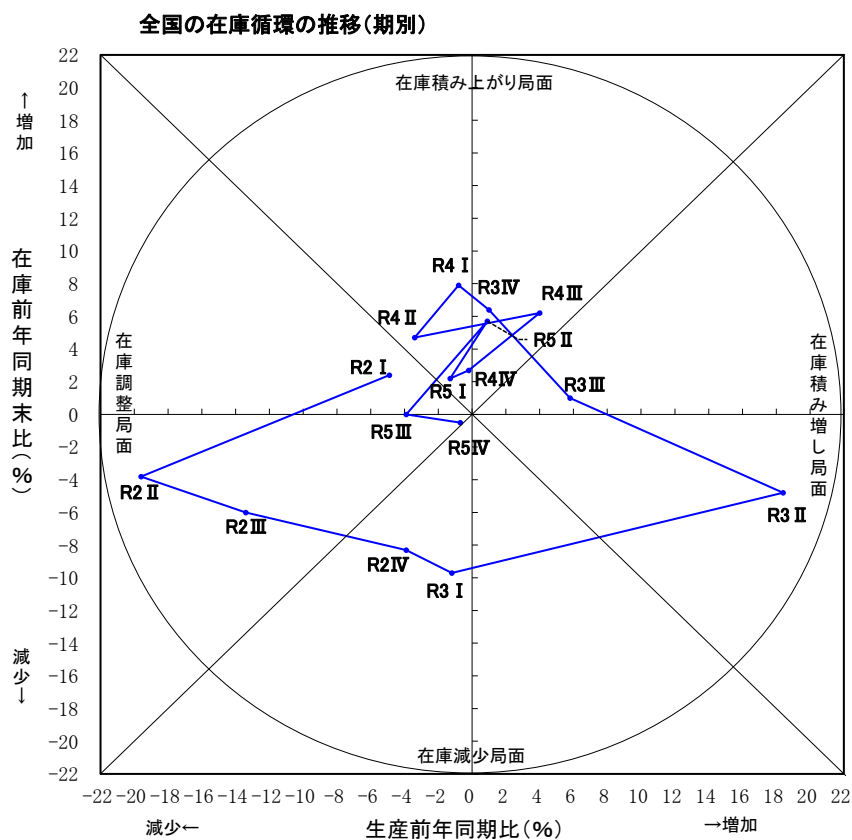
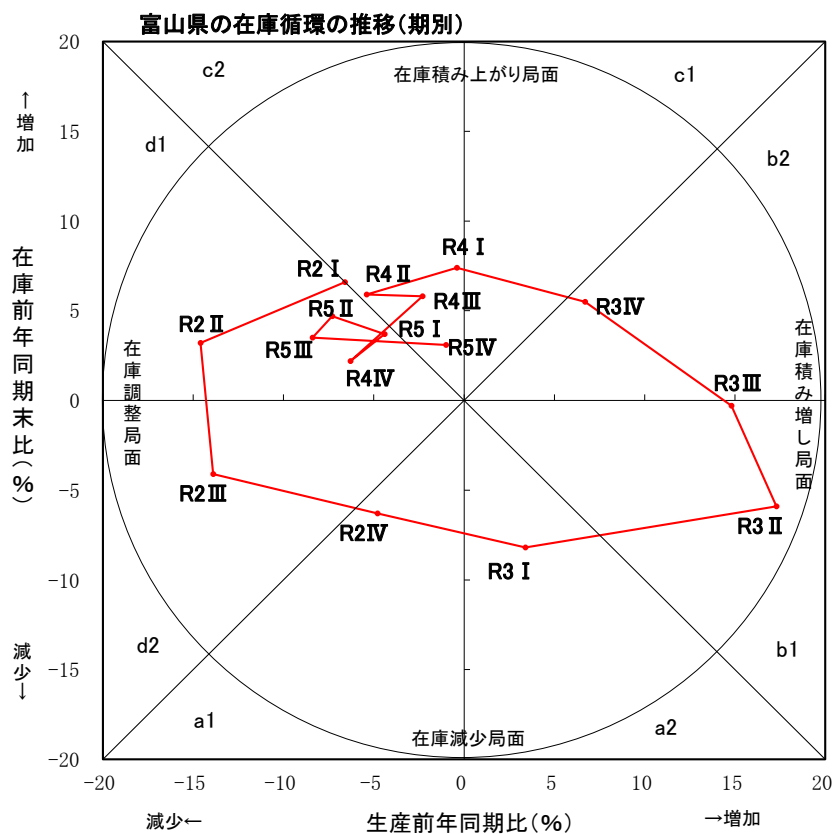
景気の山を迎え、需要が伸び悩み、下降局面にはいると、企業の需要予測より実際の需要が下回ることになり、在庫がたまりはじめる（意図せざる在庫投資、図 c1,c2）。

「在庫調整局面」

需要低迷により積み上がった在庫を意図的に減らすため、減産を行う。この結果、景気の停滞・後退は進む。これが在庫調整であり、この在庫調整が終了する時期が、ほぼ景気の谷となる（図 d1,d2）。

「在庫減少局面」

景気が回復し需要が増えると、最初は生産が追いつかず需要が予測を上回り、生産を増やしても在庫が意図しないで減少する（意図せざる在庫減局面、図 a1,a2）。



2 業種別動向

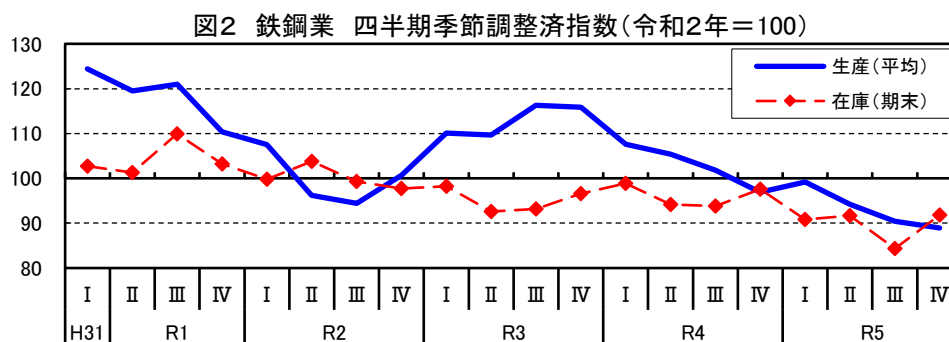
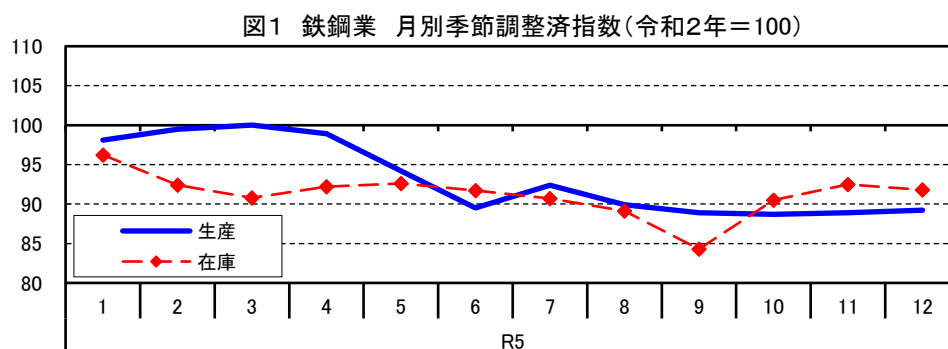
(1) 鉄鋼業

① 概況

生産指数は前年比▲9.4%（寄与度▲0.34）で93.0となり、2年連続で低下した。

在庫指数は前年末比▲4.7%（寄与度▲0.22）で90.4となり、2年ぶりに低下した。

（図1、図2、統計表第1-1表、第1-2表）

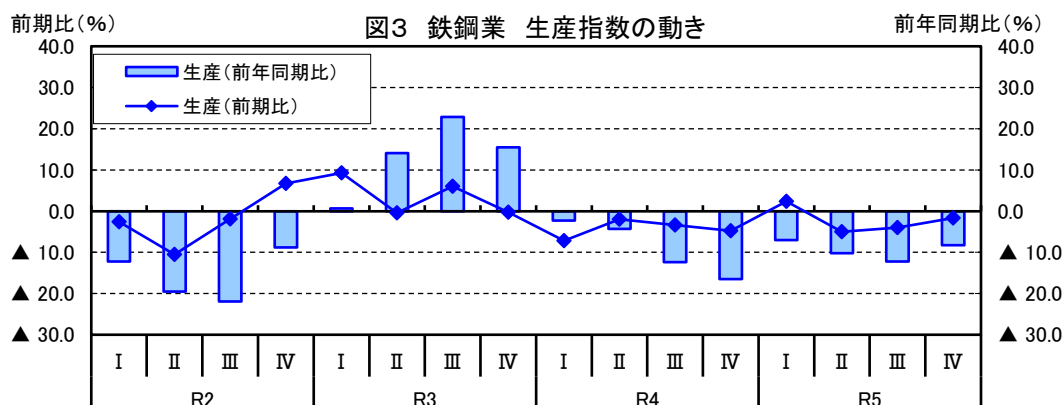


② 生 産

四半期別季節調整済生産指数は、Ⅰ期は前期比 2.4%の上昇で 99.2 と令和 3 年Ⅲ期以降 6 期ぶりに上昇したが、Ⅱ期は同▲5.0%で 94.2、Ⅲ期は同▲4.0%で 90.4、Ⅳ期は同▲1.7%で 88.9 と 3 期連続で低下した。

また、原指数は、Ⅰ期 95.2（前年同期比▲7.0%）、Ⅱ期 96.3（同▲10.2%）、Ⅲ期 89.2（同▲12.2%）、Ⅳ期 91.2（同▲8.3%）と令和 4 年Ⅰ期以降 8 期連続で前年を下回った。

（図 3、統計表第 3 表）

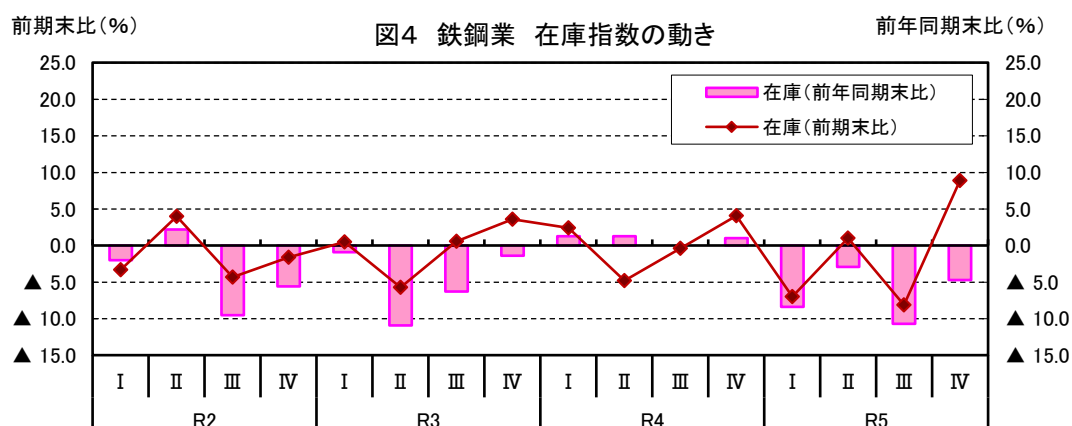


③ 在 庫

四半期別季節調整済在庫指数は、Ⅰ期は前期末比▲7.0%で 90.8 となり、Ⅱ期は同 1.0%の上昇で 91.7、Ⅲ期は同▲8.1%で 84.3 と低下したが、Ⅳ期は同 8.9%の上昇で 91.8 となった。

また、原指数は、Ⅰ期 93.2（前年同期末比▲8.4%）、Ⅱ期 92.2（同▲2.9%）、Ⅲ期 81.5（同▲10.7%）、Ⅳ期 90.4（同▲4.7%）と 4 期連続で前年を下回った。

（図 4、統計表第 4 表）



(2) 非鉄金属工業

① 概 況

生産指数は前年比▲4.5%（寄与度▲0.29）で105.4となり、2年連続で低下した。

在庫指数は前年末比6.7%（寄与度0.30）の上昇で126.8となり、2年連続で上昇した。

（図5、図6、統計表第1-1表、第1-2表）

図5 非鉄金属工業 月別季節調整済指数(令和2年=100)

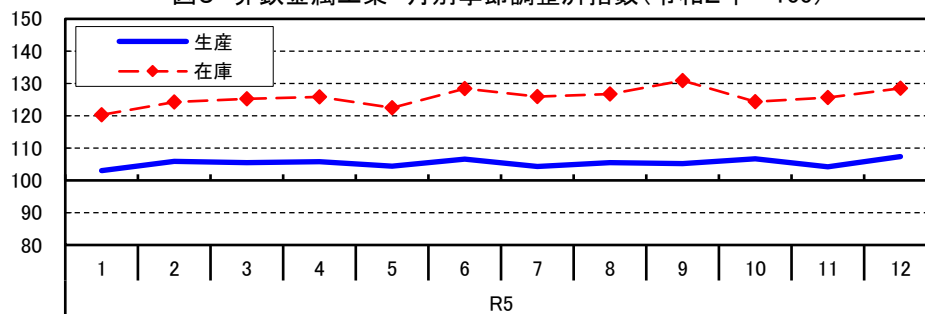
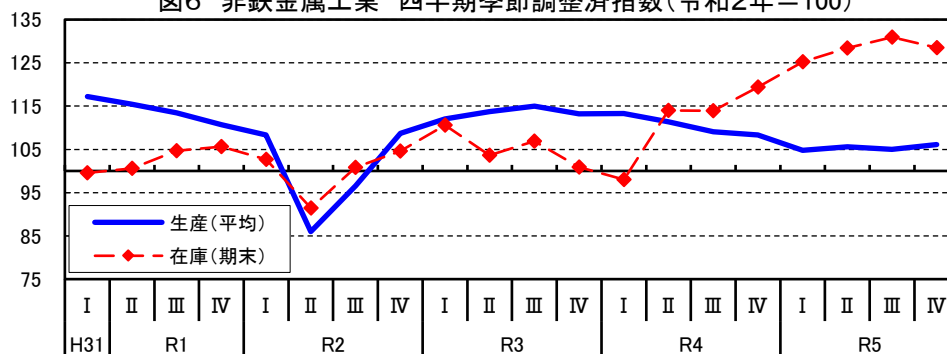


図6 非鉄金属工業 四半期季節調整済指数(令和2年=100)

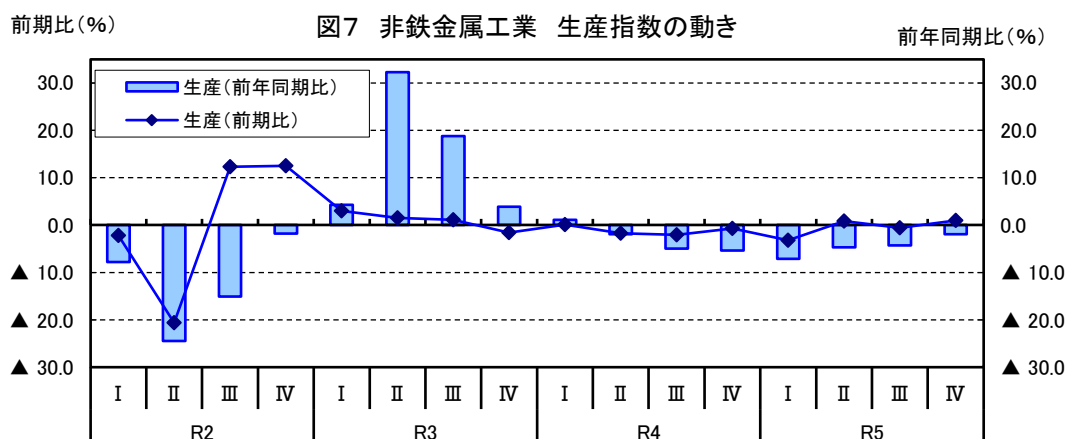


② 生産

四半期別季節調整済生産指数は、Ⅰ期は前期比▲3.2%で104.8となり、令和4年Ⅱ期以降4期連続で低下したが、Ⅱ期は同0.8%の上昇で105.6、Ⅲ期は同▲0.6%で105.0となったが、Ⅳ期は同1.0%の上昇で106.1となった。

また、原指数は、Ⅰ期103.5（前年同期比▲7.1%）、Ⅱ期105.6（同▲4.7%）、Ⅲ期103.5（同▲4.3%）、Ⅳ期109.1（同▲1.9%）と令和4年Ⅱ期以降7期連続で前年を下回った。

（図7、統計表第3表）

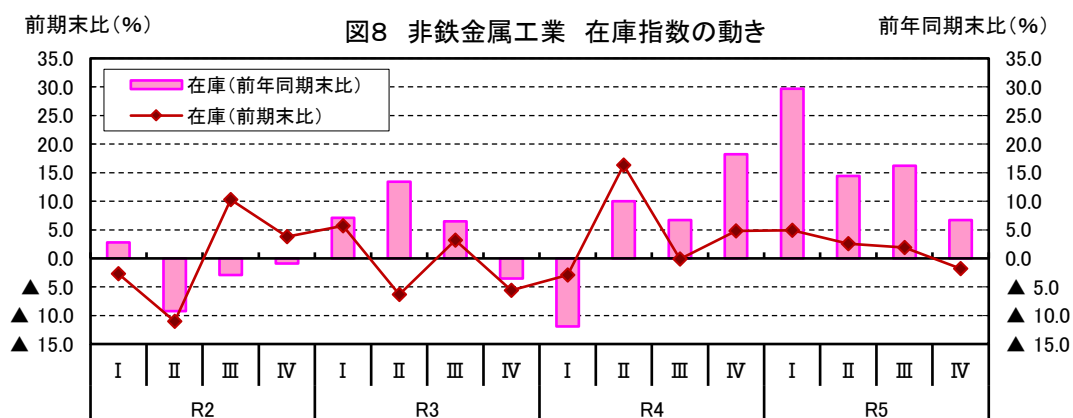


③ 在庫

四半期別季節調整済在庫指数は、Ⅰ期は前期末比4.9%の上昇で125.2、Ⅱ期は同2.6%の上昇で128.4、Ⅲ期は同1.9%の上昇で130.9と令和4年Ⅳ期以降4期連続で上昇したが、Ⅳ期は同▲1.8%で128.5となった。

また、原指数は、Ⅰ期130.9（前年同期末比29.7%）、Ⅱ期130.2（同14.4%）、Ⅲ期135.3（同16.2%）、Ⅳ期126.8（同6.7%）と令和4年Ⅱ期以降7期連続で前年を上回った。

（図8、統計表第4表）



(3) 金属製品工業

① 概 況

生産指数は前年比▲3.5%（寄与度▲0.42）で105.2となり、3年ぶりに低下した。

在庫指数は前年末比1.8%（寄与度0.09）の上昇で102.5となり、2年ぶりに上昇した。

（図9、図10、統計表第1-1表、第1-2表）

図9 金属製品工業 月別季節調整済指数(令和2年=100)

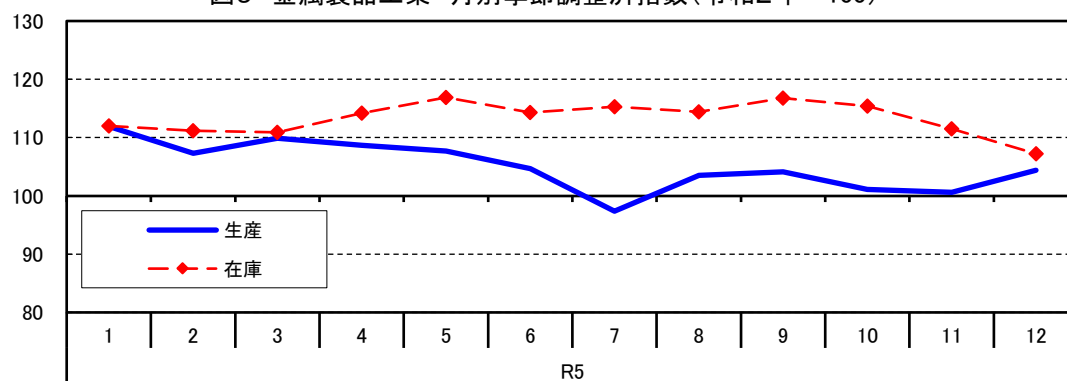
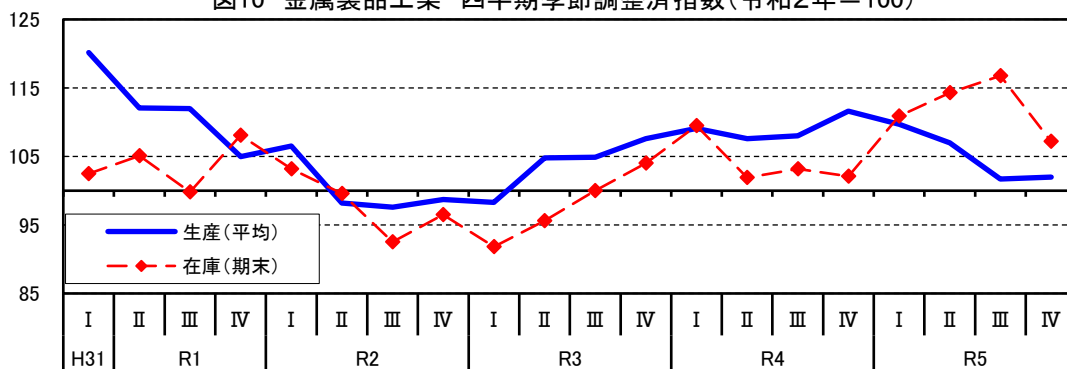


図10 金属製品工業 四半期季節調整済指数(令和2年=100)

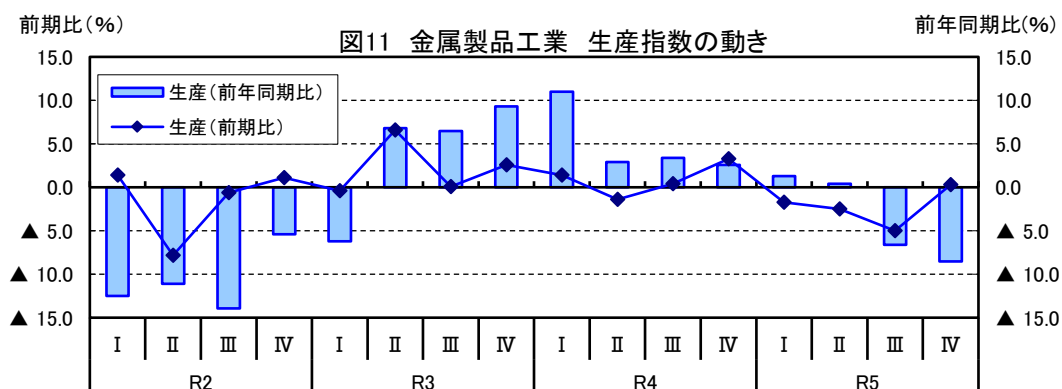


② 生 産

四半期別季節調整済生産指数は、Ⅰ期は前期比▲1.7%で 109.7、Ⅱ期は同▲2.5%で 107.0、Ⅲ期は同▲5.0%で 101.7 と 3 期連続で低下したが、Ⅳ期は同 0.3%の上昇で 102.0 となった。

また、原指数は、Ⅰ期 108.2（前年同期比 1.3%）、Ⅱ期 107.3（同 0.4%）と令和 3 年Ⅱ期以降 9 期連続で前年を上回ったが、Ⅲ期 99.2（同▲6.6%）、Ⅳ期 106.3（同▲8.5%）と 2 期連続で前年を下回った。

（図 11、統計表第 3 表）

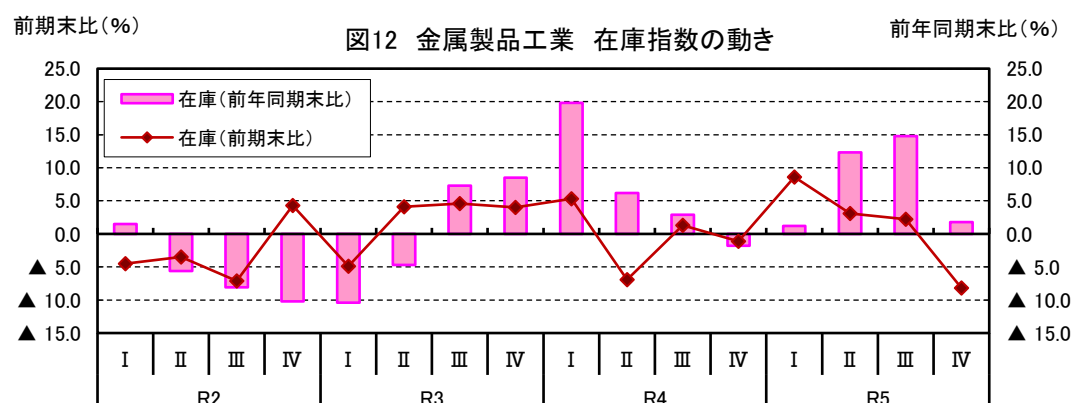


③ 在 庫

四半期別季節調整済在庫指数は、Ⅰ期は前期末比 8.6%の上昇で 110.9、Ⅱ期は同 3.1%の上昇で 114.3、Ⅲ期は同 2.2%の上昇で 116.8 と 3 期連続で上昇したが、Ⅳ期は同▲8.2%で 107.2 となった。

また、原指数は、Ⅰ期 115.1（前年同期末比 1.2%）、Ⅱ期 117.9（同 12.3%）、Ⅲ期 116.6（同 14.8%）、Ⅳ期 102.5（同 1.8%）と 4 期連続で前年を上回った。

（図 12、統計表第 4 表）



(4) 汎用・生産用・業務用機械工業

① 概 況

生産指数は前年比▲18.8%（寄与度▲3.93）で104.2となり、2年連続で低下した。

在庫指数は前年末比10.2%（寄与度1.80）の上昇で106.1となり、2年ぶりに上昇した。

（図13、図14、統計表第1-1表、第1-2表）

図13 汎用・生産用・業務用機械工業 月別季節調整済指数(令和2年=100)

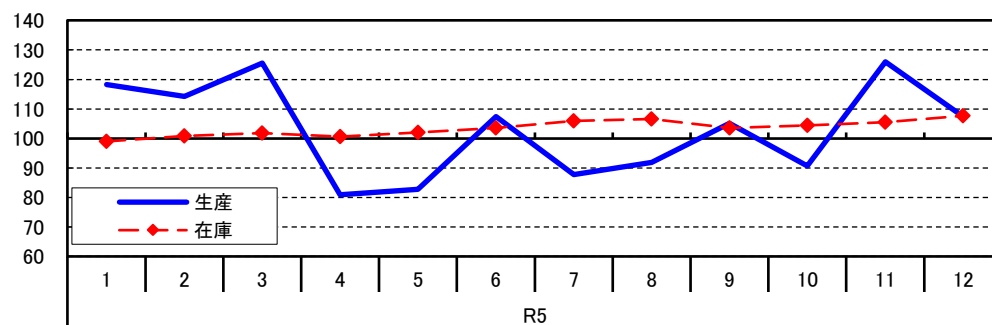
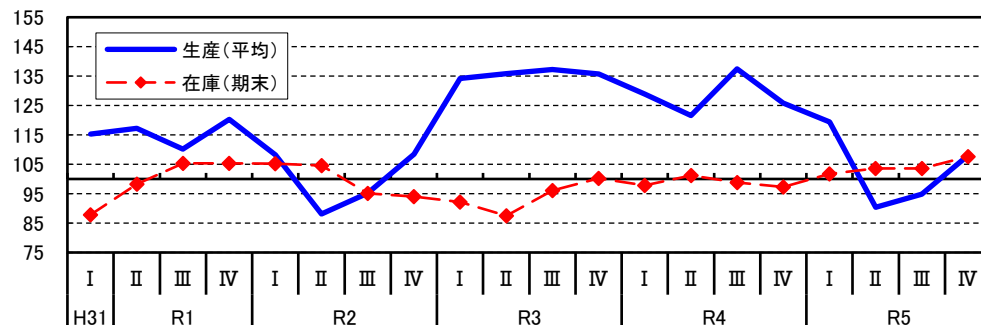


図14 汎用・生産用・業務用機械工業 四半期季節調整済指数(令和2年=100)

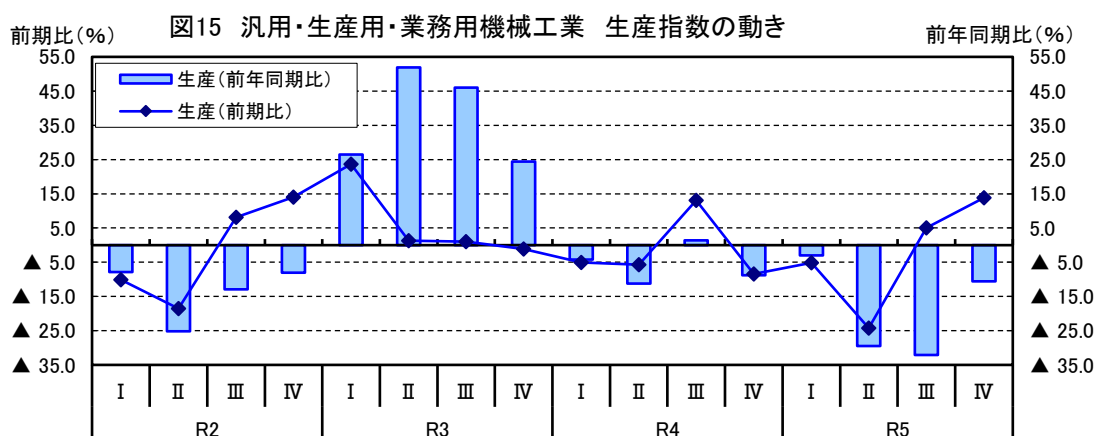


② 生産

四半期別季節調整済生産指数は、Ⅰ期は前期比▲5.2%で 119.4、Ⅱ期は同▲24.3%で 90.4 と令和 4 年Ⅳ期以降 3 期連続で低下したが、Ⅲ期は同 5.0%の上昇で 94.9、Ⅳ期は同 13.8%の上昇で 108.0 となり 2 期連続で上昇した。

また、原指数は、Ⅰ期 128.6（前年同期比▲3.0%）、Ⅱ期 83.8（同▲29.5%）、Ⅲ期 93.5（同▲32.1%）、Ⅳ期 110.9（同▲10.6%）と令和 4 年Ⅳ期以降 5 期連続で前年を下回った。

（図 15、統計表第 3 表）

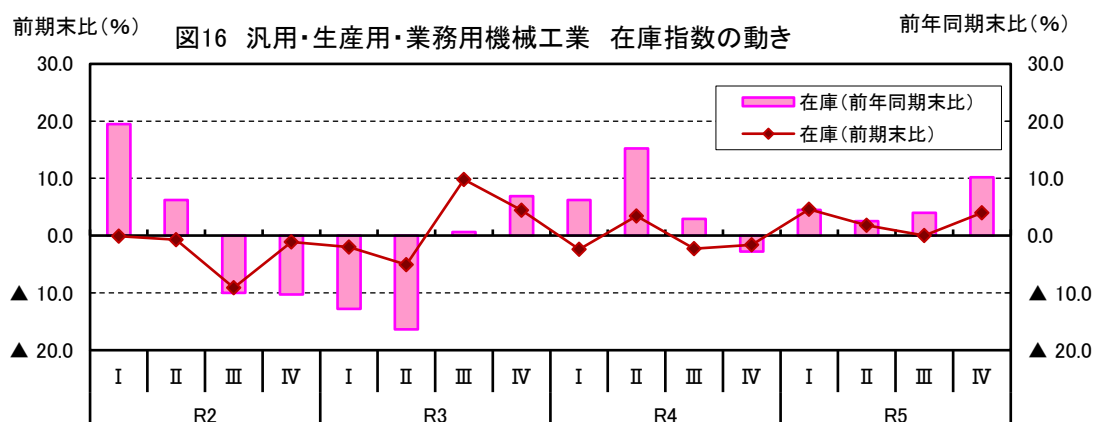


③ 在庫

四半期別季節調整済在庫指数は、Ⅰ期は前期末比 4.6%の上昇で 101.8、Ⅱ期は同 1.8%の上昇で 103.6 と 2 期連続で上昇し、Ⅲ期は横ばいとなり、Ⅳ期は同 4.0%の上昇で 107.7 となった。

また、原指数は、Ⅰ期 105.2（前年同期末比 4.5%）、Ⅱ期 104.7（同 2.5%）、Ⅲ期 101.2（同 4.0%）、Ⅳ期 106.1（同 10.2%）と 4 期連続で前年を上回った。

（図 16、統計表第 4 表）



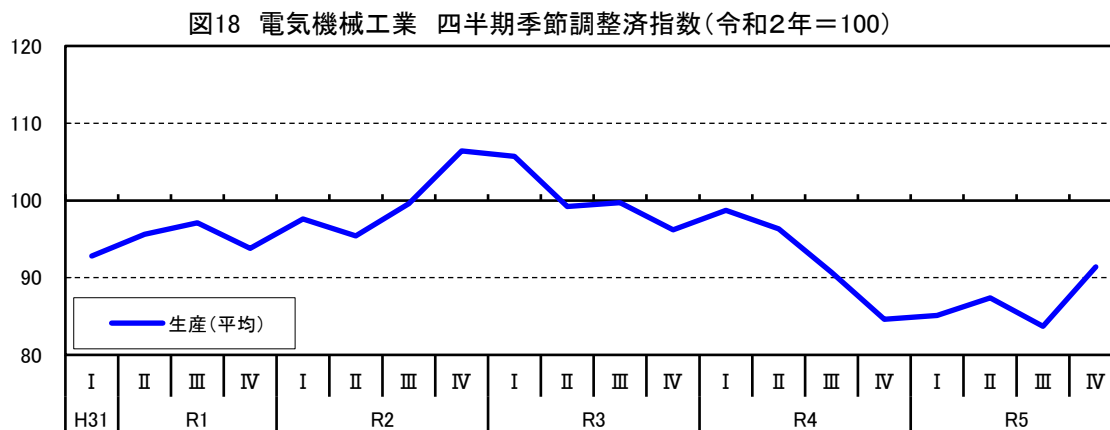
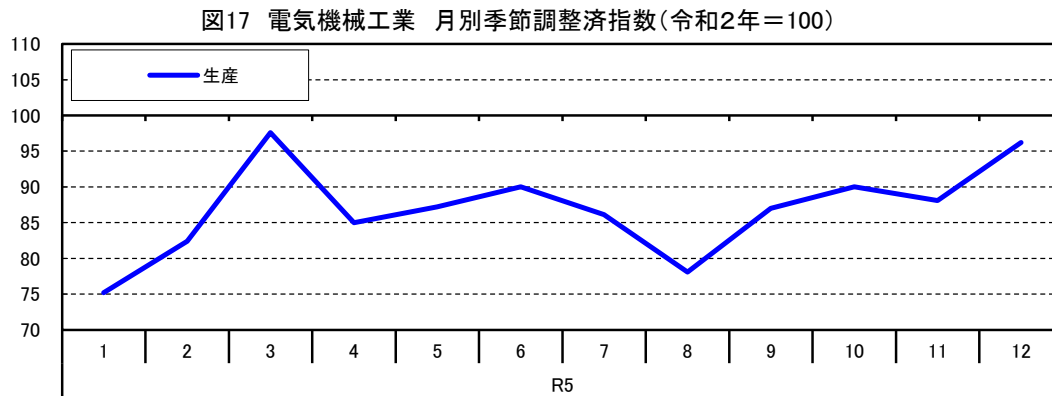
(5) 電気機械工業

① 概 況

生産指数は前年比▲5.9%（寄与度▲0.61）で86.9となり、2年連続で低下した。

在庫指数は4年ぶりに低下した。（指数値は秘匿のため非公表）

（図 17、図 18、統計表第 1-1 表）

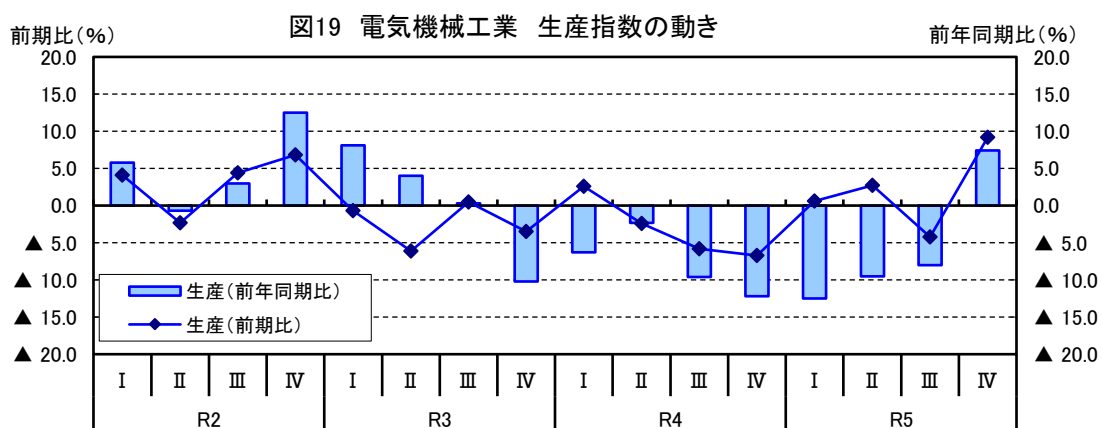


② 生 産

四半期別季節調整済生産指数は、Ⅰ期は前期比 0.6%の上昇で 85.1、Ⅱ期は同 2.7%の上昇で 87.4 と 2 期連続で上昇し、Ⅲ期は同▲4.2%で 83.7 となったが、Ⅳ期は同 9.2%の上昇で 91.4 となった。

また、原指数は、Ⅰ期 83.9（前年同期比▲12.5%）、Ⅱ期 83.0（同▲9.5%）、Ⅲ期 85.4（同▲8.0%）と令和 3 年Ⅳ期以降 8 期連続で前年を下回ったが、Ⅳ期 95.5（同 7.4%）と前年を上回った。

（図 19、統計表第 3 表）



③ 在 庫

四半期別季節調整済在庫指数は、Ⅰ期は上昇したが、Ⅱ期、Ⅲ期、Ⅳ期は 3 期連続で低下した。

また、原指数は、Ⅰ期、Ⅱ期は令和 3 年Ⅳ期以降 7 期連続で前年を上回ったが、Ⅲ期、Ⅳ期は 2 期連続で前年を下回った。

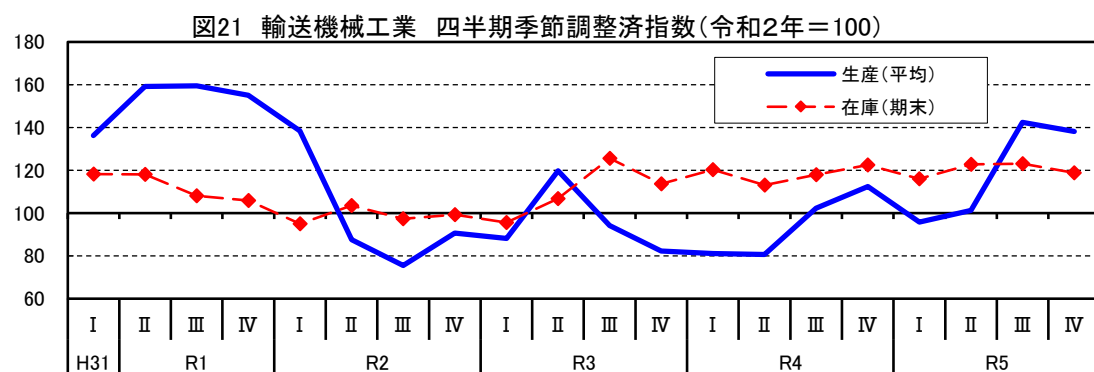
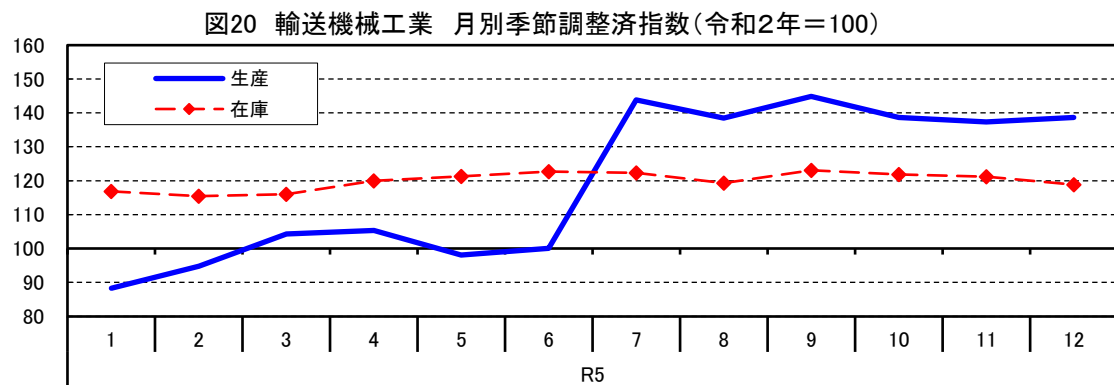
（６）輸送機械工業

① 概 況

生産指数は前年比 27.4%（寄与度 0.64）の上昇で 119.4 となり、6 年ぶりに上昇した。

在庫指数は前年末比▲0.8%（寄与度▲0.02）で 121.9 となり、3 年ぶりに低下した。

（図 20、図 21、統計表第 1-1 表、第 1-2 表）

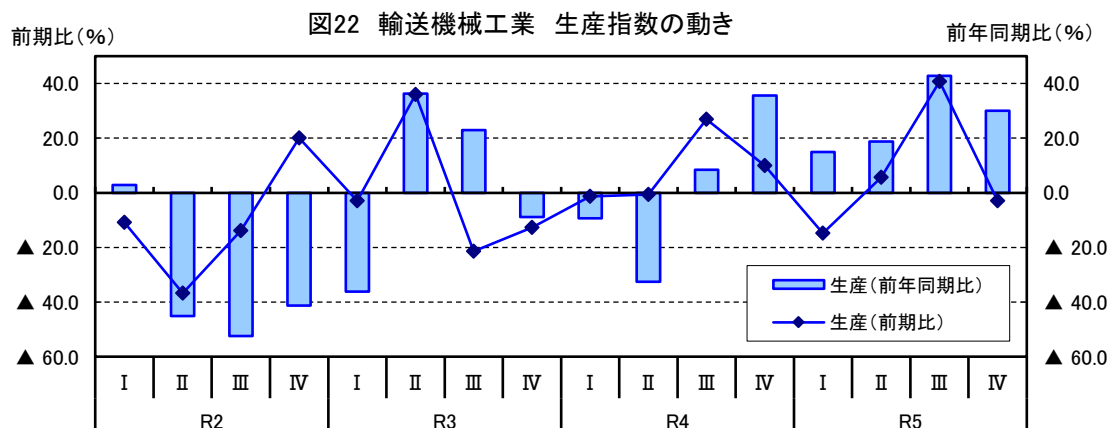


② 生産

四半期別季節調整済生産指数は、Ⅰ期は前期比▲14.8%で 95.8 と令和 4 年Ⅱ期以降 3 期ぶりに低下し、Ⅱ期は同 5.6%の上昇で 101.2、Ⅲ期は同 40.7%の上昇で 142.4 と 2 期連続で上昇したが、Ⅳ期は同▲2.9%で 138.2 となった。

また、原指数は、Ⅰ期 101.1（前年同期比 14.9%）、Ⅱ期 92.7（同 18.8%）、Ⅲ期 136.7（同 42.8%）、Ⅳ期 147.0（同 30.0%）と令和 4 年Ⅲ期以降 6 期連続で前年を上回った。

（図 22、統計表第 3 表）

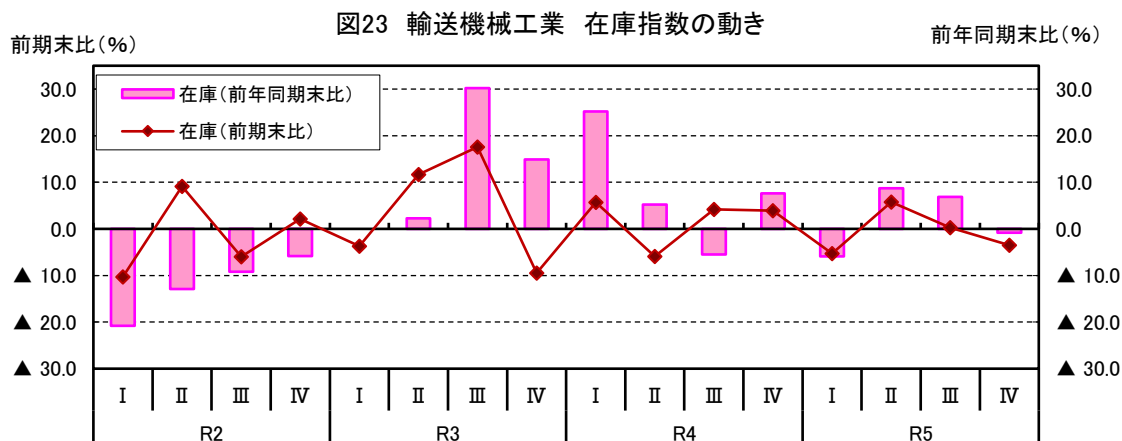


③ 在庫

四半期別季節調整済在庫指数は、Ⅰ期は前期末比▲5.3%で 116.0 と令和 4 年Ⅱ期以降 3 期ぶりに低下し、Ⅱ期は同 5.8%の上昇で 122.7、Ⅲ期は同 0.3%の上昇で 123.1 と 2 期連続で上昇したが、Ⅳ期は同▲3.5%で 118.8 となった。

また、原指数は、Ⅰ期 113.7（前年同期末比▲5.9%）と前年を下回り、Ⅱ期 119.7（同 8.7%）、Ⅲ期 127.5（同 6.9%）と 2 期連続で前年を上回ったが、Ⅳ期 121.9（同▲0.8%）と前年を下回った。

（図 23、統計表第 4 表）



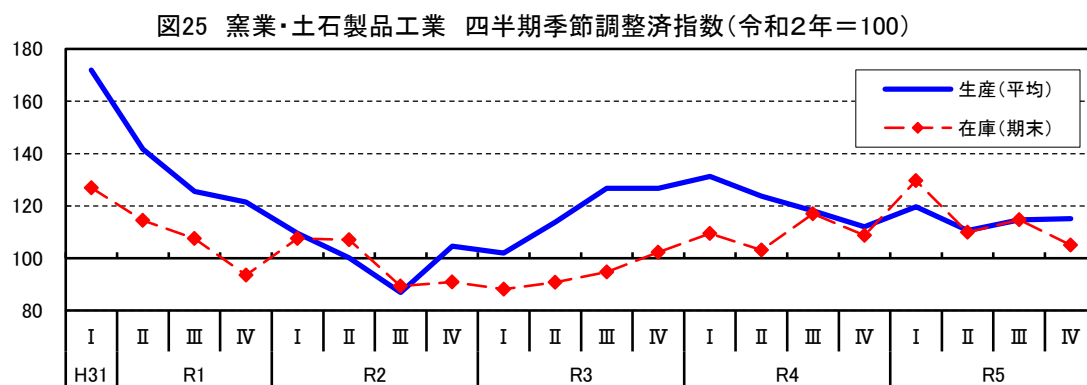
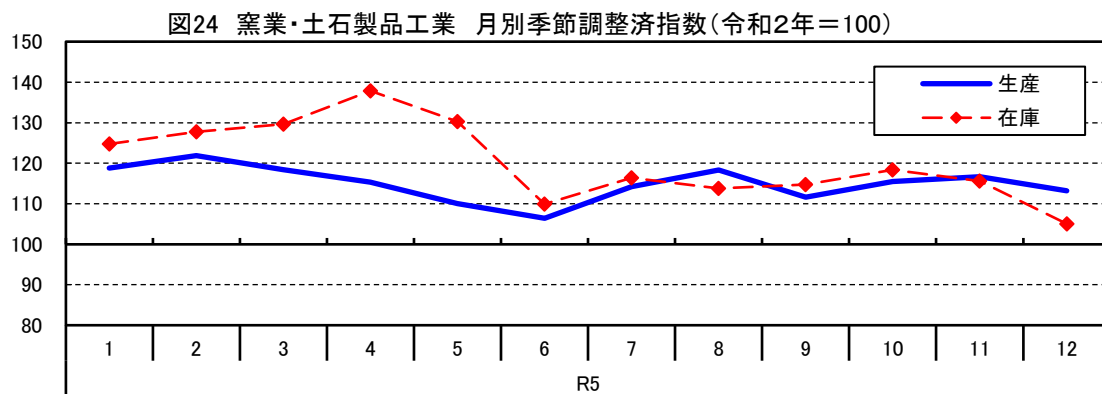
(7) 窯業・土石製品工業

① 概 況

生産指数は前年比▲4.6%（寄与度▲0.16）で 114.9 となり、3 年ぶりに低下した。

在庫指数は前年末比▲10.4%（寄与度▲0.24）で 92.1 となり、3 年ぶりに低下した。

（図 24、図 25、統計表第 1-1 表、第 1-2 表）

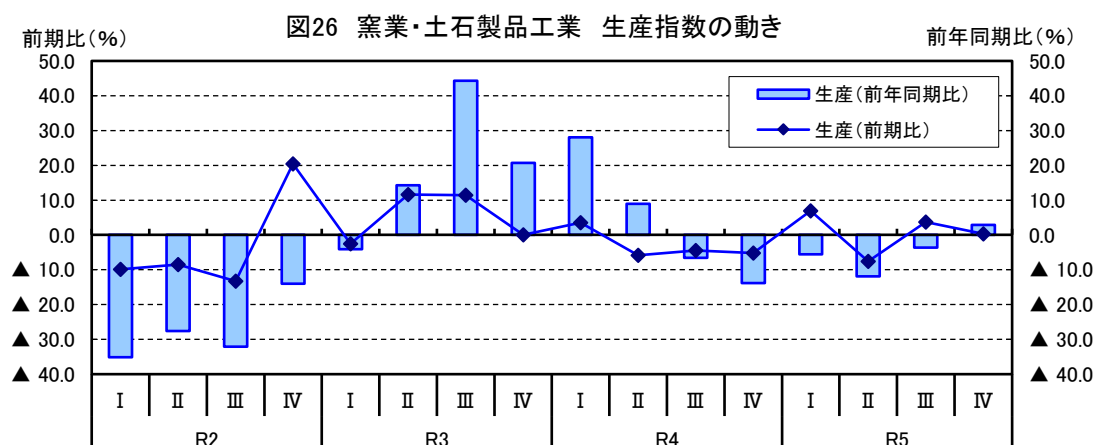


② 生産

四半期別季節調整済生産指数は、Ⅰ期は前期比 6.9%の上昇で 119.7 と令和 4 年Ⅰ期以降 4 期ぶりに上昇し、Ⅱ期は同▲7.6%で 110.6 となったが、Ⅲ期は同 3.7%の上昇で 114.7、Ⅳ期は同 0.3%の上昇で 115.1 と 2 期連続で上昇した。

また、原指数は、Ⅰ期 113.3 (前年同期比▲5.6%)、Ⅱ期 108.4 (同▲11.9%)、Ⅲ期 112.5 (同▲3.6%) と令和 4 年Ⅲ期以降 5 期連続で前年を下回ったが、Ⅳ期 125.5 (同 2.9%) と前年を上回った。

(図 26、統計表第 3 表)

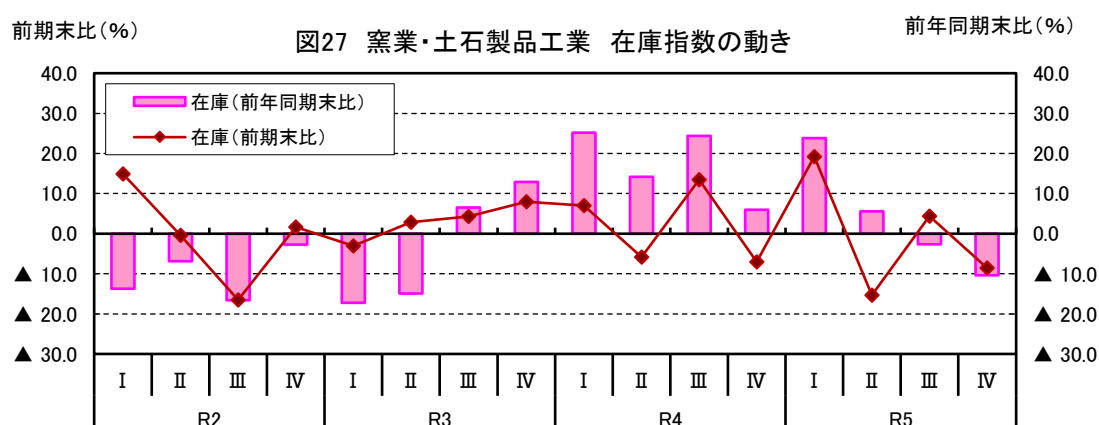


③ 在庫

四半期別季節調整済在庫指数は、Ⅰ期は前期末比 19.2%の上昇で 129.7、Ⅱ期は同▲15.3%で 109.9、Ⅲ期は同 4.4%の上昇で 114.7 となり、Ⅳ期は同▲8.5%で 105.0 となった。

また、原指数は、Ⅰ期 136.1 (前年同期末比 23.8%)、Ⅱ期 105.2 (同 5.6%) と令和 3 年Ⅲ期以降 8 期連続で前年を上回ったが、Ⅲ期 117.9 (同▲2.6%)、Ⅳ期 92.1 (同▲10.4%) と 2 期連続で前年を下回った。

(図 27、統計表第 4 表)



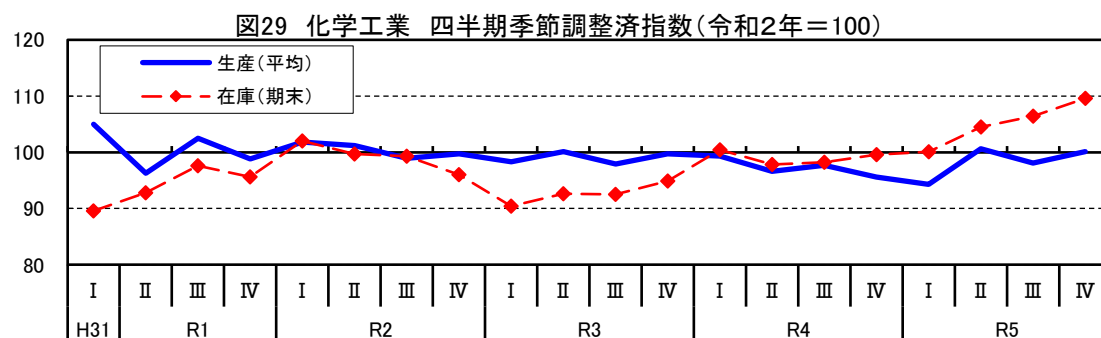
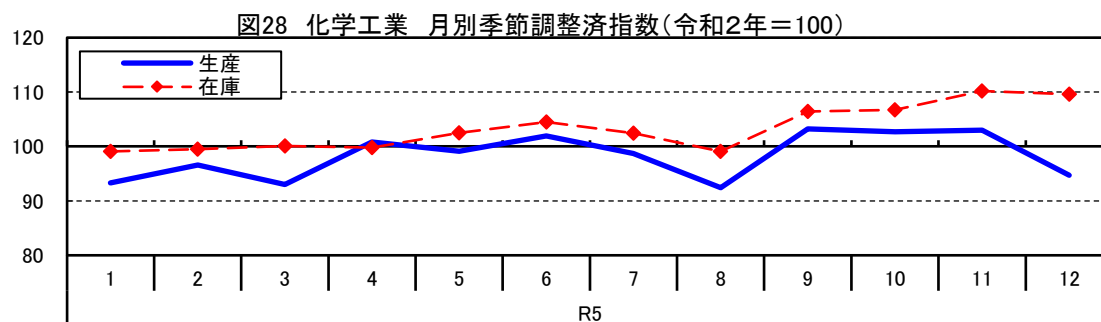
(8) 化学工業

① 概 況

生産指数は前年比 1.2%（寄与度 0.24）の上昇で 98.5 となり、4 年ぶりに上昇した。

在庫指数は前年末比 10.5%（寄与度 3.60）の上昇で 106.1 となり、2 年連続で上昇した。

（図 28、図 29、統計表第 1-1 表、第 1-2 表）

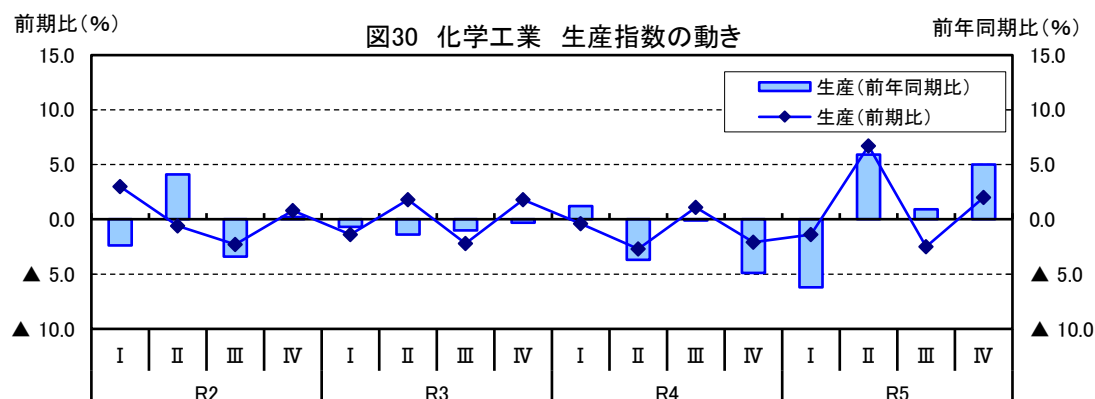


② 生産

四半期別季節調整済生産指数は、Ⅰ期は前期比▲1.4%で94.3と令和4年Ⅳ期以降2期連続で低下し、Ⅱ期は同6.7%の上昇で100.6、Ⅲ期は同▲2.5%で98.1となったが、Ⅳ期は同2.0%の上昇で100.1となった。

また、原指数は、Ⅰ期98.0（前年同期比▲6.2%）と令和4年Ⅱ期以降4期連続で前年を下回ったが、Ⅱ期101.2（同5.9%）、Ⅲ期92.4（同0.9%）、Ⅳ期102.3（同5.0%）と3期連続で前年を上回った。

（図30、統計表第3表）

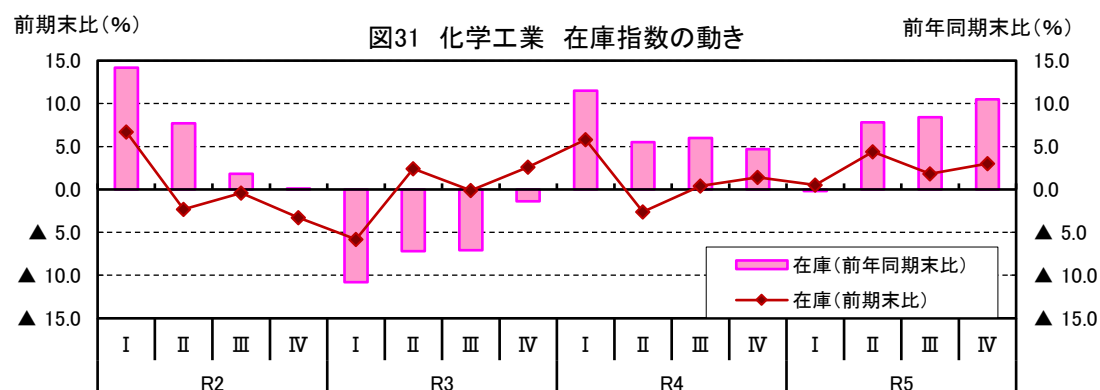


③ 在庫

四半期別季節調整済在庫指数は、Ⅰ期は前期末比0.5%の上昇で100.1、Ⅱ期は同4.4%の上昇で104.5、Ⅲ期は同1.8%の上昇で106.4、Ⅳ期は同3.0%の上昇で109.6と令和4年Ⅲ期以降6期連続で上昇した。

また、原指数は、Ⅰ期103.6（前年同期末比▲0.2%）と前年を下回ったが、Ⅱ期106.8（同7.8%）、Ⅲ期106.1（同8.4%）、Ⅳ期106.1（同10.5%）と3期連続で前年を上回った。

（図31、統計表第4表）



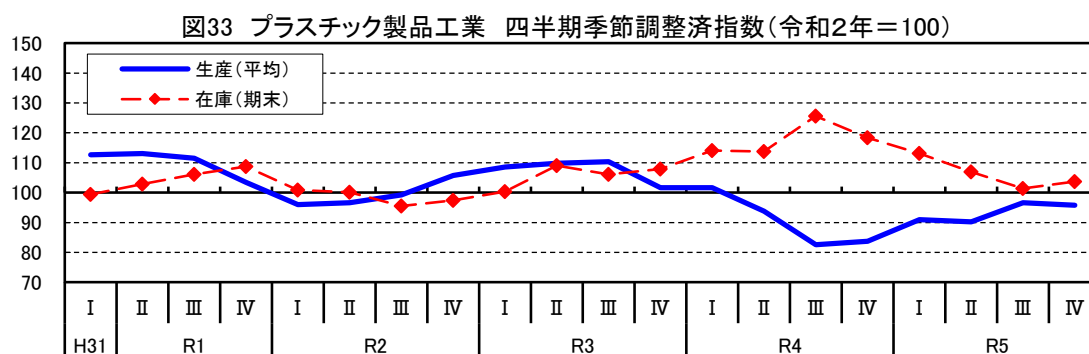
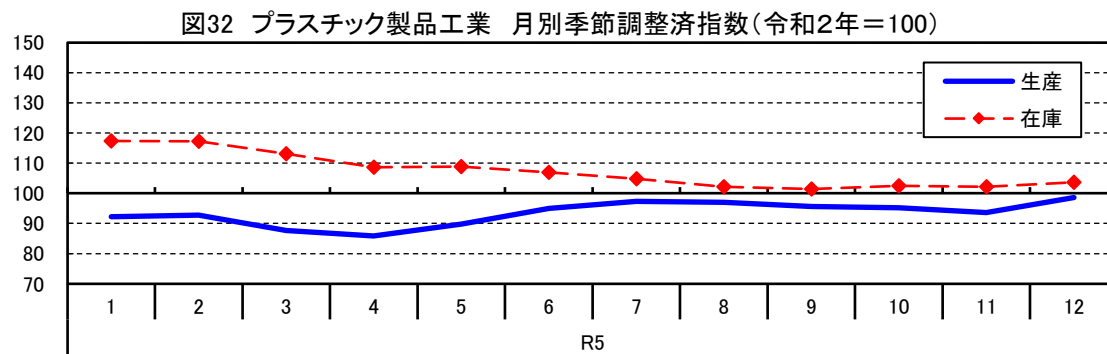
(9) プラスチック製品工業

① 概 況

生産指数は前年比 3.3%（寄与度 0.21）の上昇で 93.2 となり、2 年ぶりに上昇した。

在庫指数は前年末比▲11.8%（寄与度▲0.85）で 102.3 となり、3 年ぶりに低下した。

（図 32、図 33、統計表第 1-1 表、第 1-2 表）

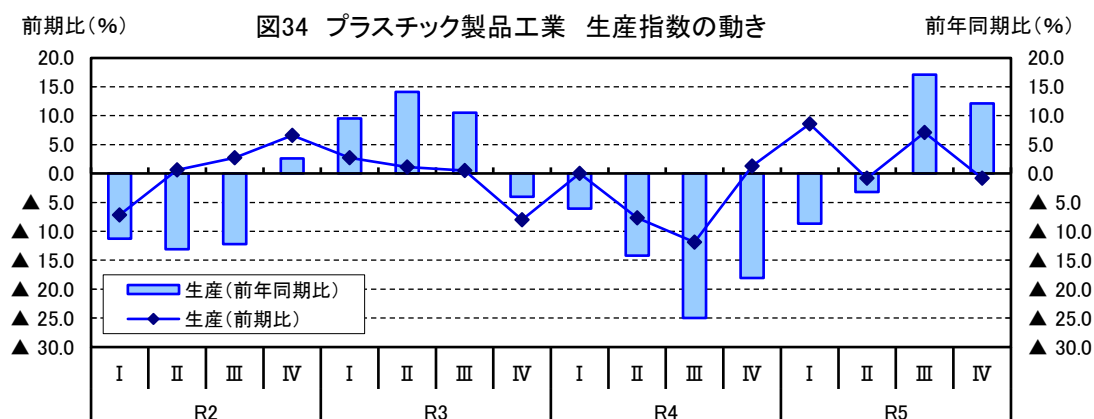


② 生産

四半期別季節調整済生産指数は、Ⅰ期は前期比 8.6%の上昇で 90.9 と令和 4 年Ⅳ期以降 2 期連続で上昇し、Ⅱ期は同▲0.8%で 90.2、Ⅲ期は同 7.1%の上昇で 96.6 となったが、Ⅳ期は同▲0.8%で 95.8 となった。

また、原指数は、Ⅰ期 90.7（前年同期比▲8.7%）、Ⅱ期 92.3（同▲3.2%）と令和 3 年Ⅳ期以降 7 期連続で前年を下回ったが、Ⅲ期 93.7（同 17.1%）、Ⅳ期 96.3（同 12.1%）と 2 期連続で前年を上回った。

（図 34、統計表第 3 表）

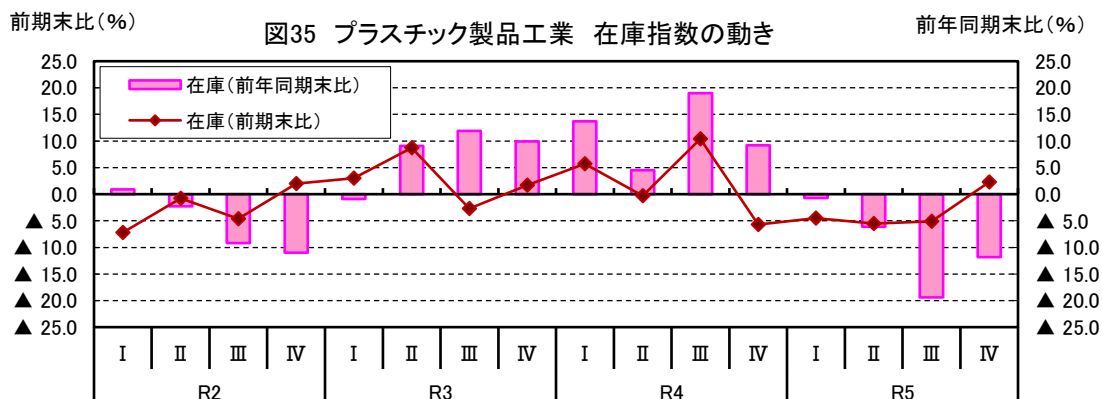


③ 在庫

四半期別季節調整済在庫指数は、Ⅰ期は前期末比▲4.5%で 113.1、Ⅱ期は同▲5.5%で 106.9、Ⅲ期は同▲5.1%で 101.4 と令和 4 年Ⅳ期以降 4 期連続で低下したが、Ⅳ期は同 2.3%の上昇で 103.7 となった。

また、原指数は、Ⅰ期 110.1（前年同期末比▲0.7%）、Ⅱ期 107.0（同▲6.1%）、Ⅲ期 102.9（同▲19.4%）、Ⅳ期 102.3（同▲11.8%）と 4 期連続で前年を下回った。

（図 35、統計表第 4 表）



(10) パルプ・紙・紙加工品工業

① 概 況

生産指数は前年比▲3.2%（寄与度▲0.11）で 107.7 となり、2 年連続で低下した。

在庫指数は前年末比 1.6%（寄与度 0.07）の上昇で 80.4 となり、2 年ぶりに上昇した。

（図 36、図 37、統計表第 1-1 表、第 1-2 表、第 4 表）

図36 パルプ・紙・紙加工品工業 月別季節調整済指数(令和2年=100)

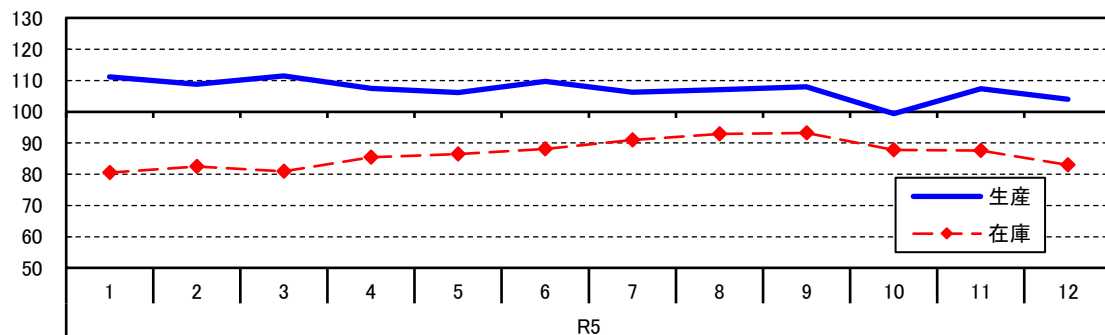
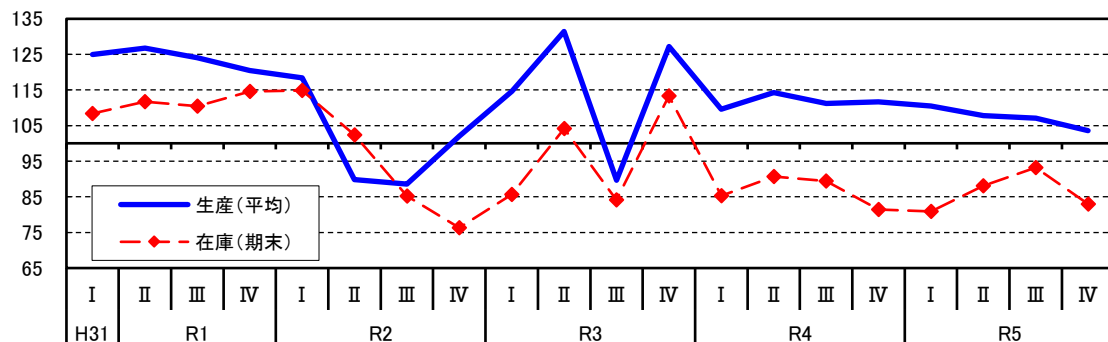


図37 パルプ・紙・紙加工品工業 四半期季節調整済指数(令和2年=100)

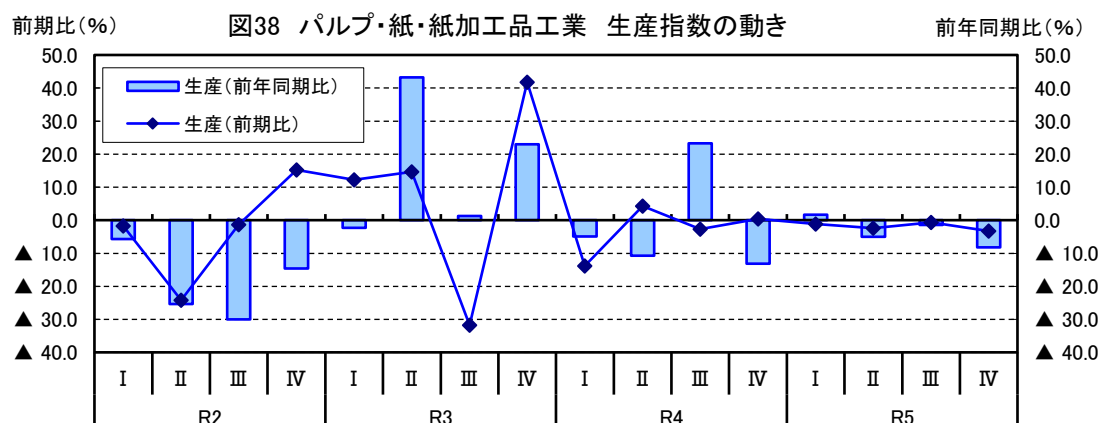


② 生産

四半期別季節調整済生産指数は、Ⅰ期は前期比▲1.1%で110.5、Ⅱ期は同▲2.4%で107.8、Ⅲ期は同▲0.6%で107.1、Ⅳ期は同▲3.3%で103.6と4期連続で低下した。

また、原指数は、Ⅰ期114.4（前年同期比1.7%）と前年を上回ったが、Ⅱ期105.7（同▲5.0%）、Ⅲ期111.2（同▲1.4%）、Ⅳ期99.6（同▲8.2%）と3期連続で前年を下回った。

（図38、統計表第3表）

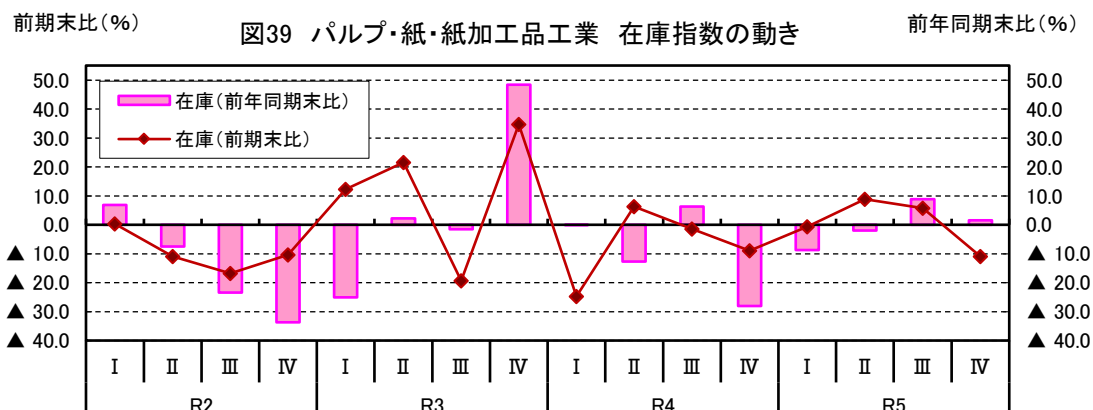


③ 在庫

四半期別季節調整済在庫指数は、Ⅰ期は前期末比▲0.6%で80.9と令和4年Ⅲ期以降3期連続で低下し、Ⅱ期は同8.9%の上昇で88.1、Ⅲ期は同5.8%の上昇で93.2と2期連続で上昇したが、Ⅳ期は同▲10.9%で83.0となった。

また、原指数は、Ⅰ期78.5（前年同期末比▲8.7%）、Ⅱ期80.4（同▲2.0%）と令和4年Ⅳ期以降3期連続で前年を下回ったが、Ⅲ期97.7（同8.8%）、Ⅳ期80.4（同1.6%）と2期連続で前年を上回った。

（図39、統計表第4表）



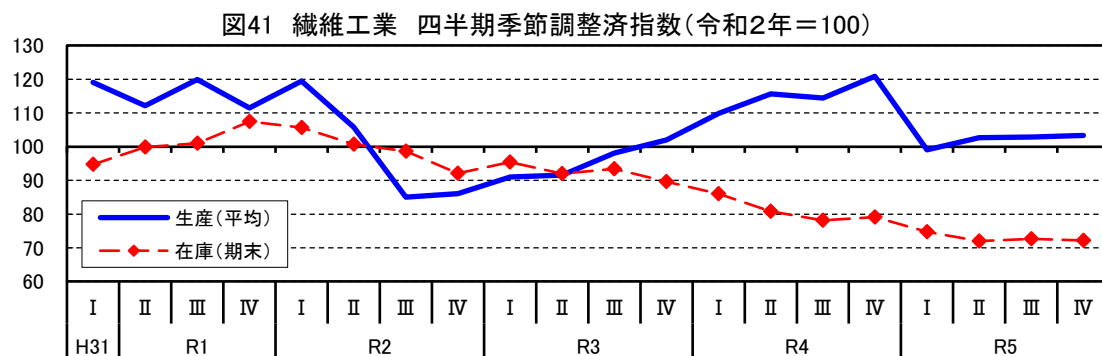
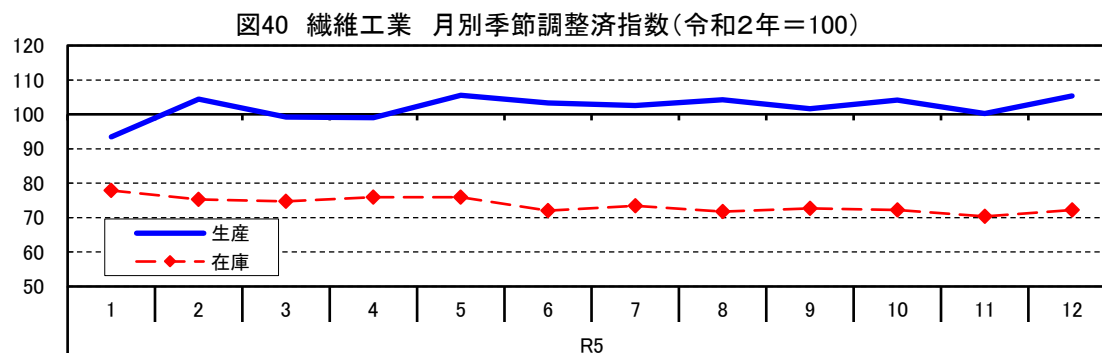
(11) 繊維工業

① 概 況

生産指数は前年比▲11.4%（寄与度▲0.20）で 101.9 となり、2 年ぶりに低下した。

在庫指数は前年末比▲7.2%（寄与度▲0.13）で 75.3 となり、4 年連続で低下した。

（図 40、図 41、統計表第 1-1 表、第 1-2 表）

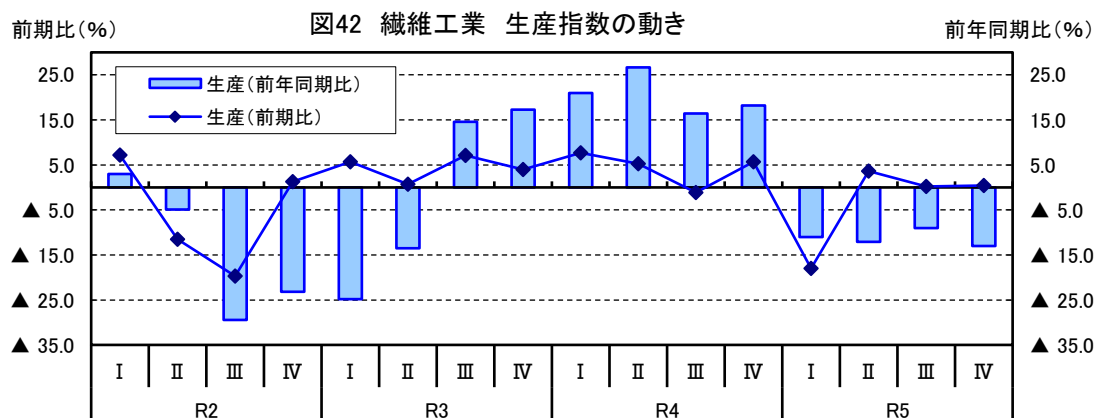


② 生産

四半期別季節調整済生産指数は、Ⅰ期は前期比▲18.0%で 99.1 と低下したが、Ⅱ期は同 3.6%の上昇で 102.7、Ⅲ期は同 0.2%の上昇で 102.9、Ⅳ期は同 0.4%の上昇で 103.3 と 3 期連続で上昇した。

また、原指数は、Ⅰ期 101.1（前年同期比▲11.0%）、Ⅱ期 103.8（同▲12.1%）、Ⅲ期 102.0（同▲9.0%）、Ⅳ期 100.9（同▲13.0%）と 4 期連続で前年を下回った。

（図 42、統計表第 3 表）

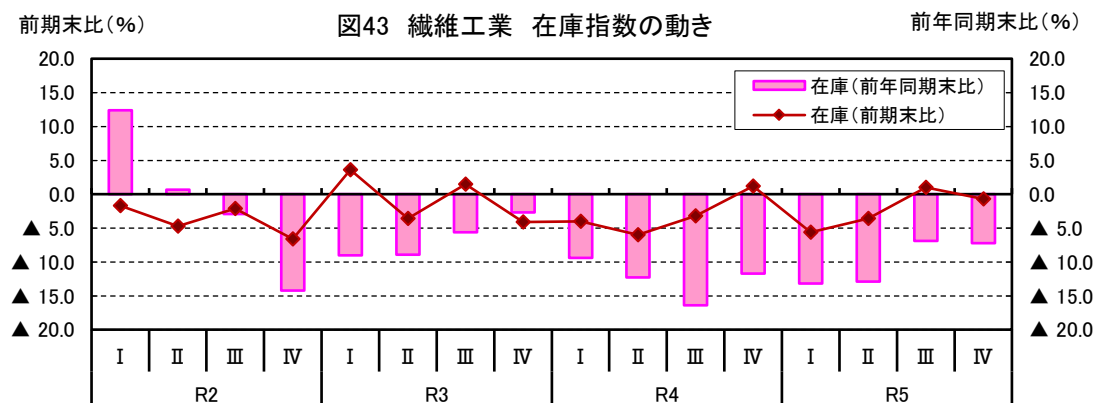


③ 在庫

四半期別季節調整済在庫指数は、Ⅰ期は前期末比▲5.6%で 74.7、Ⅱ期は同▲3.6%で 72.0 と 2 期連続で低下し、Ⅲ期は同 1.0%の上昇で 72.7 となったが、Ⅳ期は同▲0.7%で 72.2 となった。

また、原指数は、Ⅰ期 74.4（前年同期末比▲13.2%）、Ⅱ期 71.1（同▲12.9%）、Ⅲ期 72.5（同▲6.9%）、Ⅳ期 75.3（同▲7.2%）と令和 2 年Ⅲ期以降 14 期連続で前年を下回った。

（図 43、統計表第 4 表）



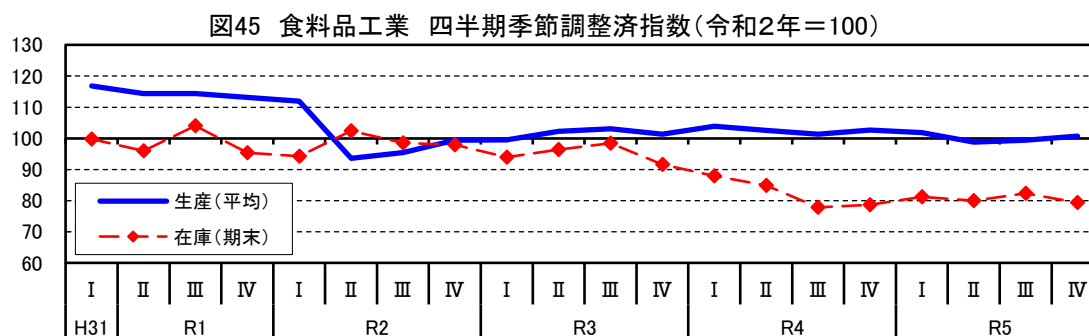
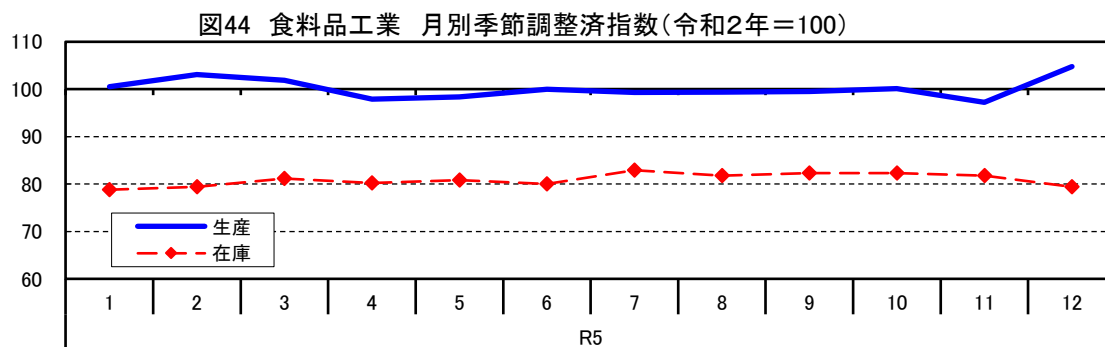
(12) 食料品工業

① 概 況

生産指数は前年比▲2.1%（寄与度▲0.10）で 100.2 となり、3 年ぶりに低下した。

在庫指数は前年末比▲0.3%（寄与度▲0.01）で 68.0 となり、3 年連続で低下した。

（図 44、図 45、統計表第 1-1 表、第 1-2 表）

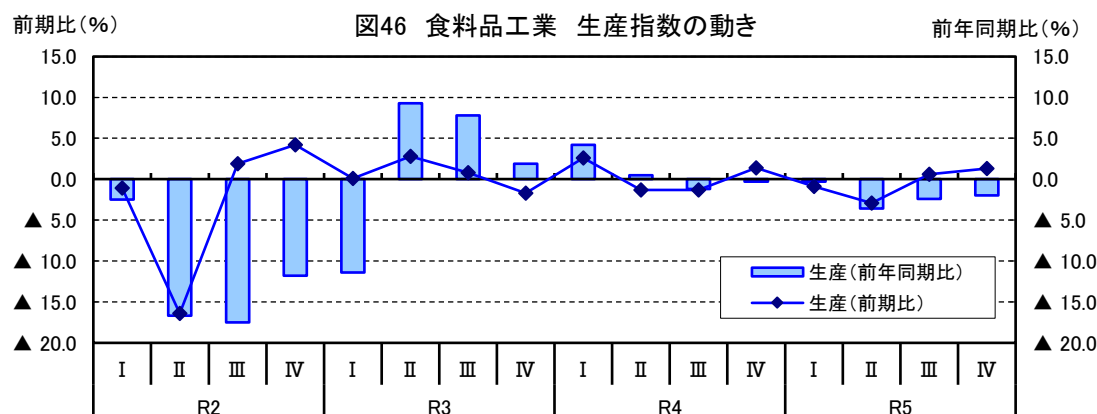


② 生産

四半期別季節調整済生産指数は、Ⅰ期は前期比▲0.9%で101.8、Ⅱ期は同▲2.9%で98.8と2期連続で低下したが、Ⅲ期は同0.6%の上昇で99.4、Ⅳ期は同1.3%の上昇で100.7と2期連続で上昇した。

また、原指数は、Ⅰ期95.5（前年同期比▲0.3%）、Ⅱ期101.5（同▲3.6%）、Ⅲ期99.2（同▲2.4%）、Ⅳ期104.5（同▲2.0%）と令和4年Ⅲ期以降6期連続で前年を下回った。

（図46、統計表第3表）

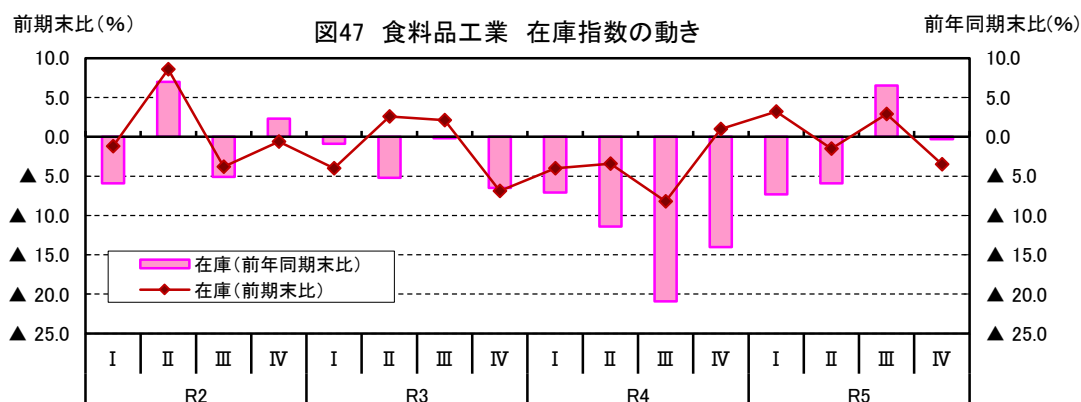


③ 在庫

四半期別季節調整済在庫指数は、Ⅰ期は前期末比3.2%の上昇で81.2と令和4年Ⅳ期以降2期連続で上昇し、Ⅱ期は同▲1.5%で80.0となり、Ⅲ期は同2.9%の上昇で82.3となったが、Ⅳ期は同▲3.5%で79.4となった。

また、原指数は、Ⅰ期82.3（前年同期末比▲7.3%）、Ⅱ期85.9（同▲5.9%）と令和3年Ⅰ期以降10期連続で前年を下回り、Ⅲ期83.7（同6.5%）と前年を上回ったが、Ⅳ期68.0（同▲0.3%）と前年を下回った。

（図47、統計表第4表）



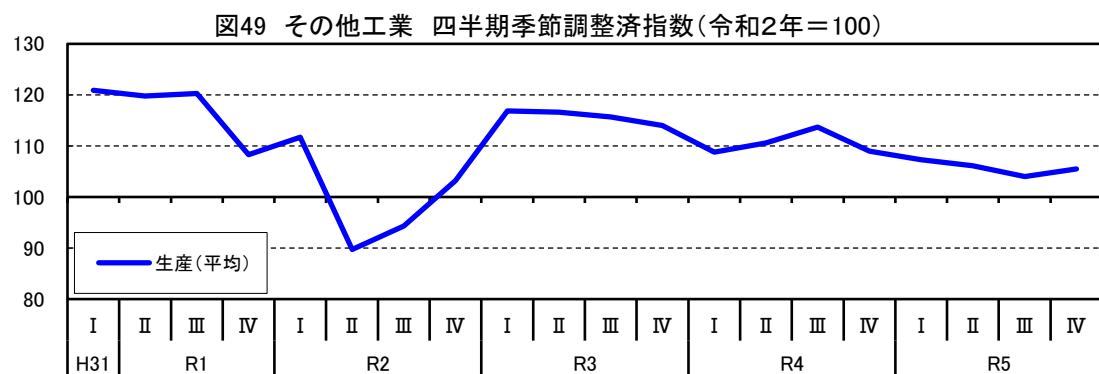
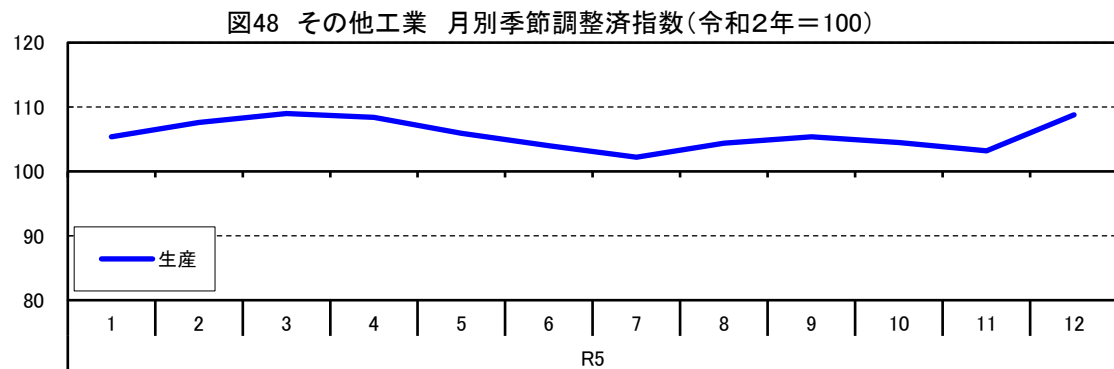
(13) その他工業

① 概 況

生産指数は前年比▲4.2%（寄与度▲0.23）で105.7となり、2年連続で低下した。

在庫指数は2年ぶりに上昇した。（指数値は秘匿のため非公表）

（図 48、図 49、統計表第 1-1 表）

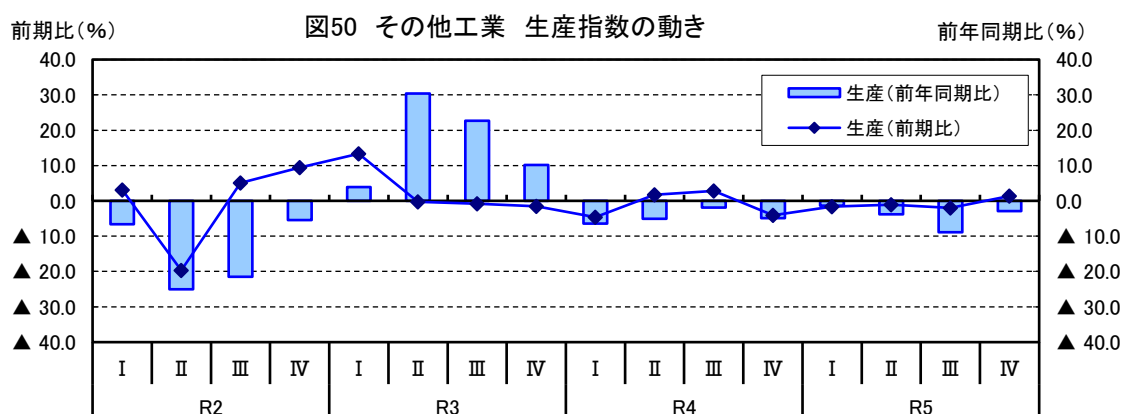


② 生産

四半期別季節調整済生産指数は、Ⅰ期は前期比▲1.6%で 107.3、Ⅱ期は同▲1.1%で 106.1、Ⅲ期は同▲2.0%で 104.0 と令和 4 年Ⅳ期以降 4 期連続で低下したが、Ⅳ期は同 1.4%の上昇で 105.5 となった。

また、原指数は、Ⅰ期 107.7（前年同期比▲1.4%）、Ⅱ期 105.0（同▲3.8%）、Ⅲ期 99.9（同▲8.9%）、Ⅳ期 110.1（同▲2.9%）と令和 4 年Ⅰ期以降 8 期連続で前年を下回った。

（図 50、統計表第 3 表）



③ 在庫

四半期別季節調整済在庫指数は、Ⅰ期は上昇し、Ⅱ期は低下したが、Ⅲ期、Ⅳ期と 2 期連続で上昇した。

また、原指数は、Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期と令和 4 年Ⅳ期以降 4 期連続で前年を下回ったが、Ⅳ期は前年を上回った。

3 財用途別動向

注：財用途別分類及び定義については P3「②特殊分類(財別)」を、品目については P15～16「業種別・財別品目一覧」を参照。

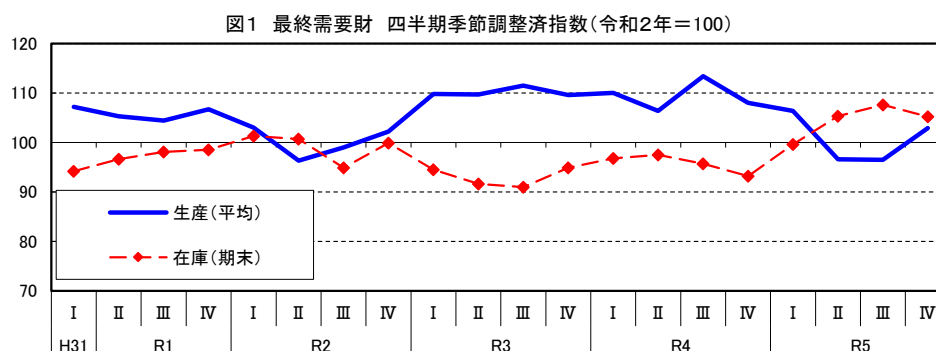
(1) 最終需要財

生産は前年比（原指数）▲7.7%で 101.0 となり、在庫は前年末比（原指数）10.4%の上昇で 101.5 となった。

また、生産指数（季節調整済指数）を四半期別にみると、Ⅰ期は前期比▲1.5%で 106.4、Ⅱ期は同▲9.2%で 96.6、Ⅲ期は同▲0.1%で 96.5 と令和 4 年Ⅳ期以降 4 期連続で低下したが、Ⅳ期は同 6.6%の上昇で 102.9 となった。

在庫指数（季節調整済指数）を四半期別にみると、Ⅰ期は前期末比 6.9%の上昇で 99.6、Ⅱ期は 5.7%の上昇で 105.3、Ⅲ期は 2.2%の上昇で 107.6 と 3 期連続で上昇したが、Ⅳ期は▲2.2%で 105.2 と低下した。

(図 1、統計表第 2-1 表、第 2-2 表、第 5 表、第 6 表)



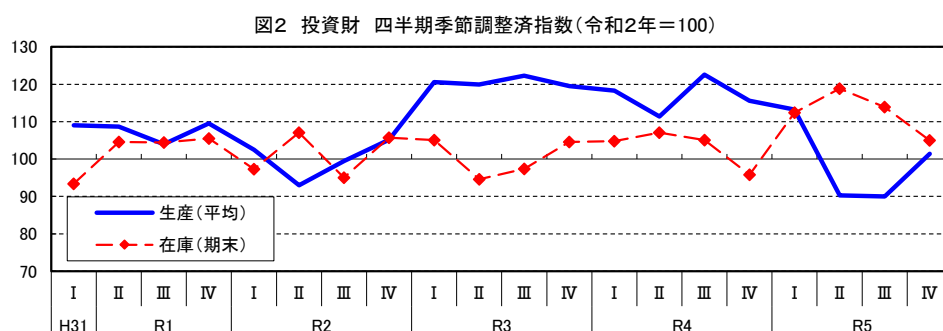
① 投資財

投資財全体では、生産が前年比（原指数）▲14.8%で 99.5 となり、在庫が前年末比（原指数）3.2%の上昇で 98.0 となった。

また、生産指数（季節調整済指数）を四半期別にみると、Ⅰ期は前期比▲2.1%で 113.2、Ⅱ期は同▲20.2%で 90.3、Ⅲ期は同▲0.3%で 90.0 と令和 4 年Ⅳ期以降 4 期連続で低下したが、Ⅳ期は同 12.7%の上昇で 101.4 となった。

在庫指数（季節調整済指数）を四半期別にみると、Ⅰ期は前期末比 17.3%の上昇で 112.4、Ⅱ期は同 5.7%の上昇で 118.8 と 2 期連続で上昇したが、Ⅲ期は同▲4.1%で 113.9、Ⅳ期は同▲7.8%で 105.0 と 2 期連続で低下した。

（図 2、統計表第 2-1 表、第 2-2 表、第 5 表、第 6 表）

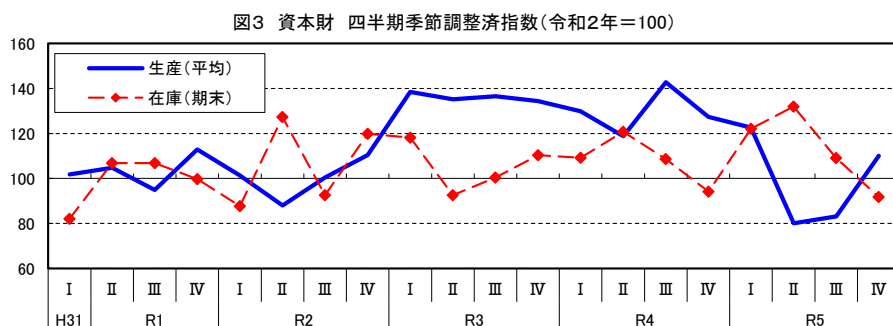


投資財のうち**資本財**は、生産が前年比（原指数）▲21.6%で 101.3 となり、在庫が前年末比（原指数）▲11.6%で 85.0 となった。

また、生産指数（季節調整済指数）を四半期別にみると、Ⅰ期は前期比▲3.8%で 122.6、Ⅱ期は同▲34.7%で 80.1 と令和 4 年Ⅳ期以降 3 期連続で低下したが、Ⅲ期は同 3.7%の上昇で 83.1、Ⅳ期は同 32.5%の上昇で 110.1 と 2 期連続で上昇した。

在庫指数（季節調整済指数）を四半期別にみると、Ⅰ期は前期末比 29.6%の上昇で 122.1、Ⅱ期は同 8.1%の上昇で 132.0 と 2 期連続で上昇したが、Ⅲ期は同▲17.3%で 109.1、Ⅳ期は同▲15.9%で 91.8 と 2 期連続で低下した。

（図 3、統計表第 2 表・第 5 表・第 6 表）

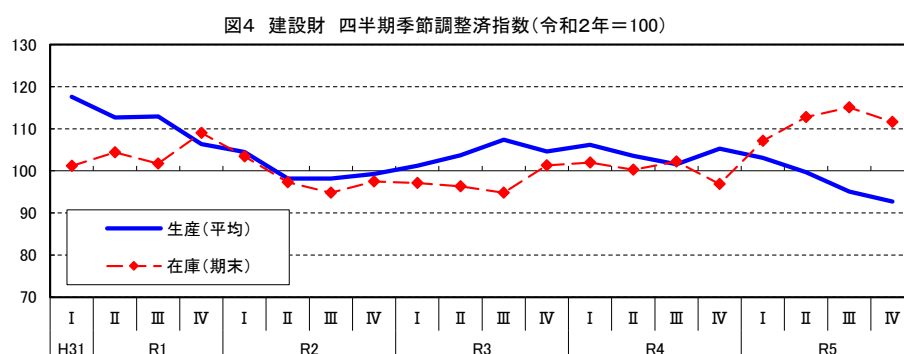


また、**建設財**は生産が前年比（原指数）▲6.1%で 97.6 となり、在庫が前年末比（原指数）11.4%の上昇で 105.2 となった。

また、生産指数（季節調整済指数）を四半期別にみると、Ⅰ期は前期比▲2.1%で 103.1、Ⅱ期は同▲3.3%で 99.7、Ⅲ期は同▲4.6%で 95.1、Ⅳ期は同▲2.5%で 92.7 と 4 期連続で低下した。

在庫指数（季節調整済指数）を四半期別にみると、Ⅰ期は前期末比 10.5%の上昇で 107.1、Ⅱ期は同 5.3%の上昇で 112.8、Ⅲ期は同 2.0%の上昇で 115.1 と 3 期連続で上昇したが、Ⅳ期は同▲3.0%で 111.6 と低下した。

（図 4、統計表第 2-1 表、第 2-2 表、第 5 表、第 6 表）



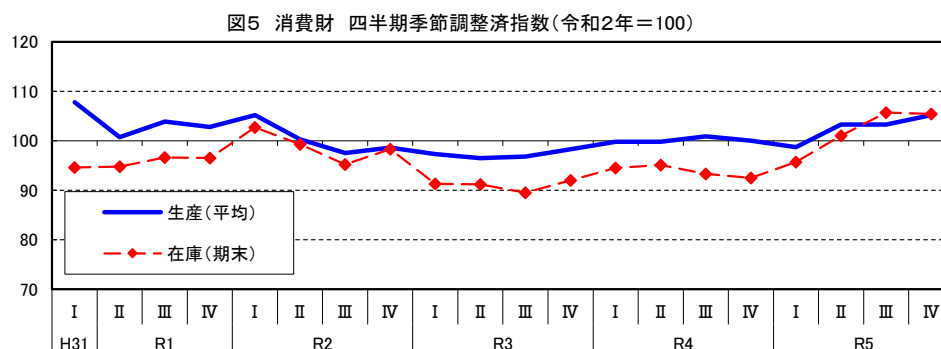
② 消費財

消費財全体では、生産が前年比（原指数）2.9%の上昇で 103.0 となり、在庫が前年末比（原指数）12.7%の上昇で 102.6 となった。

また、生産指数（季節調整済指数）を四半期別にみると、Ⅰ期は前期比▲1.3%で 98.7 と令和 4 年Ⅳ期以降 2 期連続で低下し、Ⅱ期は同 4.7%の上昇で 103.3、Ⅲ期は横ばいとなったが、Ⅳ期は同 1.8%の上昇で 105.2 となった。

在庫指数（季節調整済指数）を四半期別にみると、Ⅰ期は前期末比 3.5%の上昇で 95.7、Ⅱ期は同 5.5%の上昇で 101.0、Ⅲ期は同 4.7%の上昇で 105.7 と 3 期連続で上昇したが、Ⅳ期は同▲0.3%で 105.4 と低下した。

（図 5、統計表第 2 表・第 5 表・第 6 表）



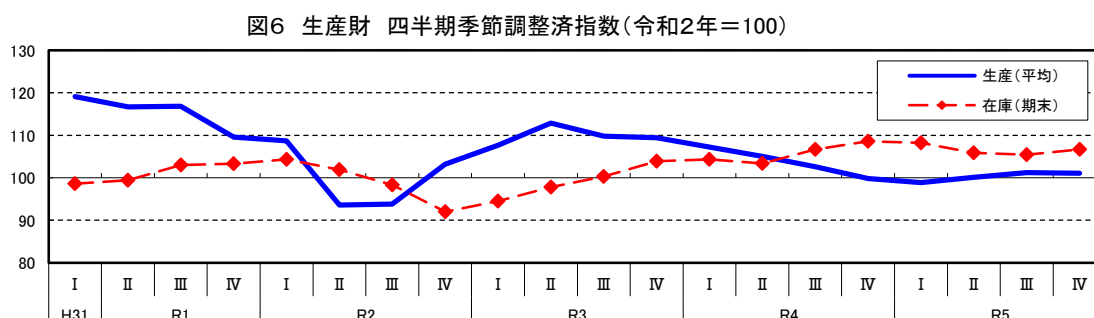
(2) 生産財

生産財全体では、生産が前年比（原指数）▲3.2%で100.2となり、在庫が前年末比（原指数）▲1.1%で103.5となった。

また、生産指数（季節調整済指数）を四半期別にみると、Ⅰ期は前期比▲0.9%で98.9と令和3年Ⅲ期以降7期連続で低下し、Ⅱ期は同1.2%の上昇で100.1、Ⅲ期は同1.1%の上昇で101.2と2期連続で上昇したが、Ⅳ期は同▲0.1%で101.1となった。

在庫指数（季節調整済指数）を四半期別にみると、Ⅰ期は前期末比▲0.4%で108.2、Ⅱ期は同▲2.1%で105.9、Ⅲ期は同▲0.5%で105.4と3期連続で低下したが、Ⅳ期は同1.2%の上昇で106.7となった。

（図6、統計表第2-1表、第2-2表、第5表、第6表）



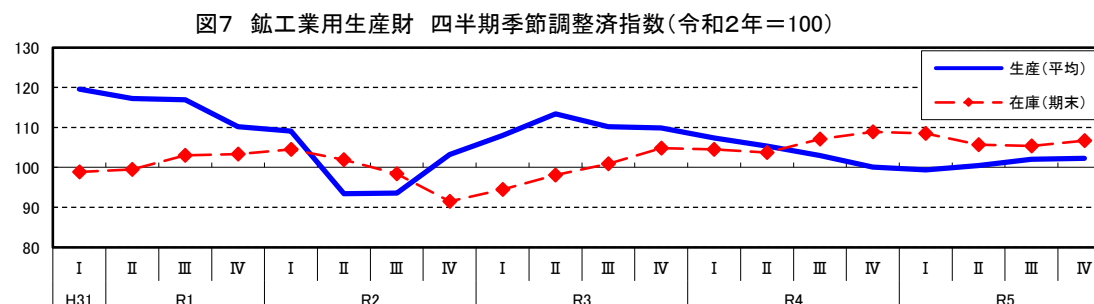
① 鉱工業用生産財

生産財のうち**鉱工業用生産財**は、生産が前年比（原指数）▲2.8%で100.9となり、在庫が前年末比（原指数）▲1.3%で103.3となった。

また、生産指数（季節調整済指数）を四半期別にみると、Ⅰ期は前期比▲0.7%で99.4と令和3年Ⅲ期以降7期連続で低下したが、Ⅱ期は同1.1%の上昇で100.5、Ⅲ期は同1.5%の上昇で102.0、Ⅳ期は同0.3%の上昇で102.3と3期連続で上昇した。

在庫指数（季節調整済指数）を四半期別にみると、Ⅰ期は前期末比▲0.4%で108.5、Ⅱ期は同▲2.6%で105.7、Ⅲ期は同▲0.3%で105.4と3期連続で低下したが、Ⅳ期は同1.2%の上昇で106.7となった。

（図7、統計表第2表・第5表・第6表）



② その他用生産財

また、**その他用生産財**は、生産が前年比（原指数）▲16.9%で 79.8 となり、在庫が前年末比（原指数）4.9%の上昇で 108.9 となった。

また、生産指数（季節調整済指数）を四半期別にみると、Ⅰ期は前期比▲10.0%で 83.6 となり、Ⅱ期は同 5.3%の上昇で 88.0 となり、Ⅲ期は同▲12.8%で 76.7、Ⅳ期は同▲6.0%で 72.1 と 2 期連続で低下した。

在庫指数（季節調整済指数）を四半期別にみると、Ⅰ期は前期末比 2.2%の上昇で 104.1、Ⅱ期は同 7.7%の上昇で 112.1 と令和 4 年Ⅲ期以降 4 期連続で上昇し、Ⅲ期は同▲6.2%で 105.2 と低下したが、Ⅳ期は同 2.0%の上昇で 107.3 となった。

（図 8、第 2-1 表、第 2-2 表、第 5 表、6 表）

